

平成22年第4回竹原市議会定例会会議録

平成22年12月20日開会

(平成22年12月20日)

議席順	氏名	出席
1	山元 経穂	出席
2	高重 洋介	出席
3	井上 美津子	出席
4	大川 弘雄	出席
5	道法 知江	出席
6	宮原 忠行	出席
7	片山 和昭	出席
8	北元 豊	出席
9	宗政 信之	欠席
10	稲田 雅士	出席
11	松本 進	出席
12	吉田 基	出席
13	脇本 茂紀	出席
14	小坂 智徳	出席

職務のため議場に参加した者は、下記のとおりである

議会事務局長 宮地 憲二

議会事務局係長 笹原 章弘

説明のため議場に出席した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名	出 欠
市 長	小 坂 政 司	出 席
副 市 長	三 好 晶 伸	出 席
教 育 長	前 原 直 樹	出 席
総 務 部 長	今 榮 敏 彦	出 席
総 務 課 長	桶 本 哲 也	出 席
情 報 化 推 進 室 長	平 田 康 宏	出 席
企 画 政 策 課 長	豊 田 義 政	出 席
財 政 課 長	塚 原 一 俊	出 席
税 務 課 長	久 重 雅 昭	出 席
会 計 管 理 者	大 下 建 宗	出 席
監 査 委 員 事 務 局 長	堀 川 豊 正	出 席
選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長	桶 本 哲 也	出 席
市 民 生 活 部 長	中 沖 明	出 席
市 民 健 康 課 長	森 野 隆 典	出 席
ま ち づ く り 推 進 課 長	大 澤 次 朗	出 席
文 化 生 涯 学 習 室 長	西 口 広 崇	出 席
忠 海 支 所 長	森 野 隆 典	出 席
人 権 推 進 室 長	中 沖 明	出 席
福 祉 課 長	大 宮 庄 三	出 席
子 ども 福 祉 室 長	井 上 光 由	出 席
建 設 産 業 部 長	谷 岡 亨	出 席
産 業 振 興 課 長	中 川 隆 二	出 席
観 光 交 流 室 長	堀 信 正 純	出 席
建 設 課 長	柏 本 浩 明	出 席
都 市 整 備 課 長	有 本 圭 司	出 席
区 画 整 理 室 長	山 元 立 志	出 席
下 水 道 課 長	大 田 哲 也	出 席
農 業 委 員 会 事 務 局 長	西 原 正 教	出 席
教 育 委 員 会 教 育 次 長	新 谷 寿 康	出 席
教 育 委 員 会 学 校 教 育 課 長	亀 井 伸 幸	出 席
教 育 委 員 会 教 育 振 興 課 長	新 谷 寿 康	出 席
水 道 課 長	前 本 憲 男	出 席

付議事件は下記のとおりである

日程第1 会議録署名議員の指名について

日程第2 会期の決定について

日程第3 一般質問

午前10時00分 開会

議長（脇本茂紀君） おはようございます。

ただいまの出席議員は13名であります。定足数に達しておりますので、これより平成22年第4回竹原市議会定例会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

議長から報告いたします。

まず、監査委員より平成22年8月から平成22年10月分までの例月出納検査結果の報告がありましたので、その写しをお手元に配付しておきましたから、御了承願います。

次に、議長において受理いたしております陳情書等につきましては、陳情等受理状況一覧表としてお手元に配付しておりましたので、御了承願います。

以上で議長からの報告を終わります。

これより日程に入ります。

日程第1

議長（脇本茂紀君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により議長において吉田基君、高重洋介君を指名いたします。

日程第2

議長（脇本茂紀君） 日程第2、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は、本日から12月24日までの5日間といたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（脇本茂紀君） 御異議なしと認めます。よって、今期定例会の会期は、本日から12月24日までの5日間と決定いたしました。

日程第3

議長（脇本茂紀君） 日程第3、一般質問を行います。

質問の順位はお手元に配付の平成22年第4回竹原市議会定例会一般質問一覧表のとおり決定いたしております。

順次質問を許します。

質問順位1番、片山和昭君の登壇を許します。

7番（片山和昭君） それでは、平成22年第4回竹原市議会定例会の一般質問を行います。片山でございます。

竹原市議会議員の選挙においてメンバーが新しくなり、初めての定例会であり、また来年度の行政の方向性を探る重要な議会でもあります。竹原市総合計画が21年3月に策定されて1年9カ月、計画内容においても、一時見直しの時期に来ております。

そこで計画内容について次のことをお聞きいたします。1、まちづくりの展開方向について。2、人口減少への対応。3、学校教育について。

まず、まちづくりの展開方向についてお聞きをいたします。

この総合計画の中では、基本理念として、「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市たけはら」を唱えています。まちづくりの展開方向として、竹原市の主要課題をもとに設定されております。

竹原市の主要課題とは、1、竹原市の特色の継承・創出・アピール。2、交流・定住を進める条件整備。3、誇れる学びと人づくり。4、健康でいきいきと暮らせる安心な環境づくり。5、安全・快適で美しい環境づくり。6、地域経済の元気づくりと働く場の確保。7、基礎自治体としての基盤強化と協働のまちづくり。この7点は私としても最重要課題と認識しておりますので、約2年間の流れと、その成果、問題点、現況を市長にお伺いいたします。

次に、人口減少への対応についてお聞きいたします。

人口減少については、世の中の流動性もさりながら、行政の取り組み方次第によって格差の出ることも確かであります。その大きな要素は言うまでもなく、1、生活環境の整備、2、雇用の確保、3、医療の充実であります。数年来、議会審議されているこの問題が現在どのように取り組まれているのか、この問題の解決が上向かないと人口減少問題の対応にはならないと思いますが、市長の存念をお伺いいたします。

最後に、学校教育についてお聞きいたします。

子供は次世代を担う日本の宝であり、またこれからの地域をつくっていく貴重な人材でもあります。その子供を育てる学校教育が教育に一貫され、子供たちが安心して学べるようお聞きします。

基本方針より、1、就学前教育の推進。2、確かな学力の向上。3、豊かな心と健やか

な体の育成。4、信頼される学校の推進。5、充実した教育環境づくり（学校の適正配置、学校環境の整備、地域とのかかわり）。以上5点、人口減少等環境は流動的であり、国の施策等も変動していく中、子供を育てることについて、教育的立場から教育委員会としてどう考えるかお伺いをいたします。

壇上での質問を終わります。

議長（脇本茂紀君） 順次答弁を願います。

市長、答弁。

市長（小坂政司君） 片山議員の質問にお答えをいたします。

3点目につきましては、教育長がお答えをいたします。

まず、1点目の御質問についてであります。本市を取り巻く社会経済情勢は、少子・高齢、人口減少社会への移行、経済のグローバル化や社会の成熟化、地方分権改革の進展など大きく変化しており、景気低迷による市税収入の伸び悩み、社会保障関係経費等の増加などにより、厳しい行財政運営を余儀なくされています。

このような状況の中で、本市は議員御指摘の7つの主要課題や特色、資源、市民等の意識、意見などを踏まえ、平成21年3月、第五次総合計画、「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」を策定し、平成25年度までの前期基本計画を住みよさ実感への基礎固めとして位置づけた上で、人づくりと個性づくりの2つの観点から、暮らしの質の向上等を図るための条件整備や交流人口の拡大から定住へとつながる施策に総合的に取り組んでおります。

したがいまして、この前期基本計画に基づいて施策を推進していくことが市の主要課題の解決につながっていくものと考えておりますが、これまでの取り組みを市の主要課題に即して説明をいたしますと、まず、竹原市の特徴、特色の継承・創出・アピールに関しては、行政や暮らしの情報をまとめた市民向けの「たけはらまるごとガイド」の発刊や本年10月にオープンした「道の駅たけはら」を拠点とした本市の自然や歴史、文化などの魅力の発信などに取り組んでいるところであります。

交流、定住を進める条件整備に関しては、放課後児童クラブの開設や赤ちゃんの駅設置など、地域全体で子育てを支援する環境の整備を図るとともに、雇用対策や企業誘致などに取り組んでおります。

誇れる学びと人づくりに関しては、確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成、学校施設の耐震化や給食センターの整備などの教育環境の整備を図るとともに、市が所蔵

する歴史的資料の保存、整理などに努めているところであります。

健康で生き生きと暮らせる安心な環境づくりに関しては、認知症高齢者対策や多目的トイレの設置など、高齢者福祉や障害者福祉の充実と市民の健康づくりを総合的に進めているところであります。

安全・快適な美しい環境づくりに関しては、消防救急体制の強化や自然災害等から市民を守る防災対策に取り組むとともに、新開地区の区画整理や道路、下水道、公園などの都市基盤の整備を推進しております。

地域経済の元気づくりと働く場の確保に関しては、道の駅を活用した農産品などのブランド開発や農商工連携、商店街等の活力向上など、産業の振興に取り組んでいるところであります。

基礎自治体としての基盤強化と協働のまちづくりに関しては、市政の透明性の向上や市民に信頼される人材の育成など、市民本位の基礎組織づくりに取り組むとともに、市民の皆さんと行政がより一層強いパートナーシップを築けるよう協働のまちづくりのさらなる推進に取り組んでおります。

今後、これからの数年間は、少子・高齢、人口減少の進行や分権改革の進展、厳しい財政状況など、さらなる変革の荒波の中にあると予想されますが、第五次総合計画の目指す将来像である「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」の実現に向け、引き続き人づくりと個性づくりを重点的、横断的なキーワードとして住みよさ実感の基礎固めを強化し、元気で住みよい竹原市づくりに全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

次に、2点目の御質問についてであります。我が国全体が平成17年から人口減少社会に移行し、とりわけ地方における人口減少が顕著となっている状況の中、本市においては、昭和55年の3万6,895人をピークに人口減少が続いており、現在は2万9,000人台で推移しております。人口の増減を決定する要因は、出生、死亡という自然増減と転出、転入という社会増減の2つの側面がありますが、今日の我が国の人口減少は、1970年代から始まった出生率低下による出生数の減少、いわゆる少子化の進行によって生じたものであるとされております。また、社会増減につながる人口移動については、地方から首都圏を中心とした都市部へ人口の集中が加速している状況にあり、総務省が公表しました平成21年の都道府県別の人口移動状況によると、転入が転出を上回ったのは、東京都など10都県のみで、他の37道府県は転出超過となっております。

少子化による構造的な人口減少に対する対策については、まずは国において抜本的な対策を講じることが必要であると考えますが、都市への人口流出に歯どめをかけるためには、本市も含め各自治体において、地域の特性を生かした施策を講じていくことが必要であると考えております。

本市におきましては、総合計画において、目指す将来像、住みよさ実感を掲げており、とりわけ市から転出する人口に歯どめをかけるとの観点から、本市の持つ自然環境や歴史、文化、コミュニティーなど持てるもの、いわゆる底力を発揮し、暮らしの豊かさなどを高めることで、住み続けたいまちを目指すとともに、訪れたい、住んでみたいまちに向けて、交流人口の拡大から定住につながる施策に取り組むこととしております。

今年度におきましても、元気で住みよい竹原市づくりへ向け、住みよさ実感の基礎固めを強化する観点から、例えば、生活環境の整備面では、土地区画整理事業や公共下水道整備事業などの基盤整備に引き続き取り組むとともに、保育料負担軽減事業などのソフト事業にも取り組んでおります。また、雇用の確保面におきましては、企業誘致体制の強化や就職ガイダンスの実施などにより、新規雇用の場の創出に取り組んでおります。さらに、医療の充実面におきましては、乳幼児医療費支給の拡充や今回の補正予算においても計上しております各種予防接種の公費負担にも取り組むこととしております。今後とも教育や子育て環境の充実、企業誘致や雇用対策の推進、保健福祉等の充実、安全・安心なまちづくりや快適な生活環境等の充実など、暮らしの質向上等を図り、元気で住みよい竹原市を目指してまいりたいと考えております。

以上、私のほうからの答弁といたします。

議長（脇本茂紀君） 教育長。

教育長（前原直樹君） 3点目の御質問につきまして、お答えいたします。

竹原市教育委員会は、「夢をもち、子どもが輝く教育」の実現を目指し、知・徳・体のバランスのとれた子供を育成すべく学校教育の充実に努めております。竹原市総合計画に盛り込んだ基本方針から項目に沿った御質問がありましたので、それぞれの項目に沿って御説明をいたします。

まず、第1の就学前教育の推進については、1、教育内容の充実、2、特別支援教育の推進、3、施設・備品の整備充実を掲げております。

教育内容の充実では、自然体験や社会体験を重視するとともに、幼児期にふさわしい道徳性を獲得するよう努めております。芋掘り体験や読み聞かせなど、地域、保護者、ボラ

ンティア団体の皆様の協力をいただきながら、特色ある教育に取り組んでおります。

次に、特別支援教育の推進では、園児一人一人の実態を正しく把握するために、専門機関から講師を招いて園児の実態を観察していただき、助言、指導をいただくなどの取り組みを行っております。

また、施設、備品の整備充実では、遊びを通して集団保育ができるような教材、図書などの充実を努めております。

次に、第2の確かな学力の向上については、1、基礎学力の向上・定着。2、活用・探究する学習活動の充実。3、ことばの教育の推進。4、理数教育の推進。5、特別支援教育の推進を掲げております。

基礎学力の向上・定着及び活用・探究する学習活動の充実については、各校において研究テーマを設定し、大学教授等の指導者を招いた校内研修や授業研究会を実施し、一人一人の児童・生徒に確実に力をつける研究を積み重ねております。

また、今年度から指導主事による計画訪問、要請訪問を重点的に実施し、授業観察を通して具体的な指導を行い、各校の取り組みがより充実するように努めています。今年度、広島県が実施した基礎・基本定着状況調査及び文部科学省が実施した全国学力・学習状況調査においては、既に学校教育だよりで御紹介いたしましたように、市内の小・中学校ともに良好な結果を得ております。また、この全国調査において、特徴ある結果を示した学校における取り組み事例として、文部科学省が取り上げた中学校5校のうちの1校に本市の中学校が選ばれ、国立教育政策研究所のホームページに紹介されております。

ことばの教育の推進については、各校において、聞く、話す、読む、書く力の育成を意識した授業改善に取り組んでおります。児童・生徒が季節の変化や地域や学校行事等で感じたことを俳句や作文などに表現するなど、言葉と心をつなげる取り組みを行っております。また、言語環境の充実にも努め、児童・生徒の作品を教室や校内掲示板へ計画的に掲示したり、学校だよりに掲載して紹介したりするなど、児童・生徒が意欲的に学習する機会を設定しております。さらに、コンクールなどにも積極的に応募しており、ことしは中国新聞社主催の作文コンクール「鈴木三重吉賞」で、竹原市において初めてとなる学校賞の受賞や広島県教育委員会主催の「ことばの輝き」コンクールで最優秀賞を受賞するなどの結果となってあらわれています。

理数教育の推進については、新学習指導要領の実施に係り、学習内容が系統的、計画的に定着できるように、学習に係る教材の整備を重点的に行いました。今後も児童・生徒が

理科や算数、数学など、学ぶことの意義や楽しさを実感する授業の推進に努めてまいります。

特別支援教育の推進については、特別な支援が必要な児童・生徒に対する支援を養護教諭や特別支援教育コーディネーターを中心に組織的に取り組んでおります。また、専門家を講師として招いた研修会を実施し、実際に授業や児童・生徒の様子を観察していただき、具体的な支援ができるような取り組みを行っております。

続いて第3の豊かな心と健やかな体の育成については、1、道徳教育の推進。2、伝統・文化等に関する教育の推進。3、生徒指導の推進。4、体験活動、読書活動の推進。5、キャリア教育の推進。6、体力づくりの推進。7、健康教育の推進。8、食育の推進。9、環境教育の推進。10、家庭の教育力の向上を掲げております。

道徳教育の推進については、竹原市道徳教育推進協議会を組織し、毎年8回以上の研修を計画し、実施しております。例えば、各校で行われている道徳の時間を参観するなど、児童・生徒の心に響く道徳教育の実践に向けた研修を重ねております。

また、伝統・文化などに関する教育の推進を図るため、社会科学習教材「きょうど竹原」の作成や「塩物語」、「竹原新開物語」などの演劇の継続的な取り組みを初め、今年度は町並み保存地区を地域素材とした道徳資料の作成にも取り組んでおります。

生徒指導の推進については、いじめ、暴力行為、不登校等への対応の推進に努めております。今年度6月には、議会、保護者、教育委員会が一堂に会した竹原市の教育を考える懇談会で、竹原市の不登校について協議する機会を持つことができ、その後、市内のボランティア団体との継続的な取り組みを行っております。また、各校で全校生徒に対するいじめアンケートを実施するなど、引き続ききめ細やかな取り組みを行ってまいります。

体験活動、読書活動の推進については、今年度、県の「山・海・島」体験活動推進事業を活用し、竹原小学校の5年生が3泊4日の宿泊体験活動を行いました。他の小学校も1泊2日の宿泊体験活動を通し、野外炊さん、キャンプファイヤーなど、さまざまな体験活動を経験する中で、仲間とのつながりを強く感じたり、みずからの仕事への責任感を持つたりするなど、豊かな心の育成に大きな効果をもたらしています。

さらに、昨年度から実施しております「竹原っこ夢プロジェクト」では、陶芸やお菓子づくり、カープやサンフレッチェなどのスポーツ選手との交流などを通じて、将来の夢の実現に向けて子供たちの意欲が高まるよう取り組んでおります。また、読書活動については、朝読書の時間の設定、「読書の森」事業を活用した学校図書館の整備、地域読書ボラ

ンティア活用など、学校独自で特色ある取り組みを進めております。本を読むことが豊かな感性を育て、豊かな言語力の育成につながっております。

キャリア教育の推進については、今年度、市内115の事業所の協力を得ながら、市内全中学校の2年生が5日間の職場体験学習に取り組みました。生徒の勤労観、職業観を育てることを目的としたこの取り組みは6年目を迎えました。生徒は実際の職場を体験することを通して、コミュニケーション能力や責任を持って最後までやり遂げることの大切さ、働くことの意義や喜びについて実感を伴った体験をして、着実に成果を上げております。

体力づくり及び健康教育の推進については、全児童・生徒を対象に新体力テストを実施し、結果の分析を通して児童・生徒の体力面の実態を把握し、その改善に役立てております。今年度は小学校においては、すべての学年が総合点で全国平均を上回りましたが、中学校では、走力、投力、跳躍力において課題が明らかになりました。自校の弱い部分を克服するために、小学校では授業と授業の間に、竹馬、一輪車、大縄跳びを取り入れて、中学校では校内駅伝大会を企画したり、部活動に外部指導者を招いたりして体力向上に努めております。これらの取り組みの中から、市内小学校の実践が、県のまとめる体力づくりの事例集に掲載される予定です。また、保健指導においても、喫煙、飲酒、薬物乱用などの防止にかかわる取り組みを進めております。

食育の推進については、学校、家庭、地域が連携し、継続的な取り組みを行っています。竹原市の児童・生徒における食に関する実態から、食事のマナー、朝御飯の充実、家事への参画に課題があることがわかり、教育委員会では、各発達段階における目標を定めております。具体的には、1、毎朝御飯を食べる子供を100%に近づける。2、バランスのとれた食事をする子供をふやす。3、はしの持ち方、配膳の仕方、食べる姿勢など、マナーに気をつけて食事のできる子供をふやすというものです。また小学校3年生で炊飯器を使い御飯の炊ける子、中学生では自分で自分のお弁当をつくれる子を目標とする児童・生徒像として設定し、取り組みを進めております。これまで市内の2つの小学校が県の学校給食表彰を受けたり、おはし検定の取り組みがマスコミに取り上げられたり、最近では、市内の小学生が「第1回ひろしま県お弁当3・3コンクール」で約1,500名の応募者の中から審査員特別賞を受賞したりするなどの成果も出てきております。

環境教育の推進では、今年度、学校緑化推進事業を立ち上げ、学校ごとに緑化運動に取り組みました。児童会、生徒会を中心に、一人一鉢運動を進めたり、校舎の壁面緑化に取り

り組んだり、各校が創意工夫を凝らした取り組みを進め、その成果は竹原市広報でも紹介させていただいております。また、植物を育てる活動を通して豊かな心をはぐくむだけでなく、緑のカーテンのある教室とない教室での室温の変化を調べ、環境問題についての学習にもつながる実践を行っています。さらに、本年度、県の校庭芝生化事業の指定をいただき、吉名小学校グラウンドの全面芝生化に取り組んだ際には、保護者、地域の住民の皆様のお協力をいただくとともに、今後の維持管理にも協力をいただくこととなり、地域を巻き込んだ環境教育の推進が図られていくものと考えております。

家庭の教育力向上については、「ひろしま学びのサイクル」でも示された家庭学習での重要性を各家庭に発信することを通して、学校での学習と家庭での学習が関連し、子供の学びの効果があらわれるよう家庭啓発を行っております。また、学びの基本は基本的な生活習慣の確立にあることや、親子読書、ノーテレビデーなどの効用についても家庭に発信しております。

続きまして、第4の信頼される学校教育の推進については、1、校長のリーダーシップの確立、2、学校運営組織の確立、3、開かれた学校づくり、4、教職員の資質向上を掲げております。

御承知のとおり、広島県は平成10年に、当時の文部省から是正指導を受け、法規法令にのっとり、教育の中立性と公開性を柱として、学校運営の推進に取り組んでおります。本市におきましても、校長がリーダーシップを発揮し、適切な学校運営ができるよう取り組んでまいりました。また、開かれた学校づくりを目指し、ホームページや学校へ行こう週間の取り組みを充実させるとともに、学校関係者評価を取り入れて、地域、保護者の皆様からの評価を学校経営に反映させるように努めております。

一方で、昨年、一昨年と本市教諭による不祥事案が発生しております。このことは大変重く受けとめ、保護者、市民の皆様からの信頼回復に努めてまいりました。各学校において、不祥事防止委員会、体罰・セクハラ相談窓口を設け、不祥事の未然防止と不祥事を許さない体制づくりに取り組んでおります。市の教育委員会といたしましては、今年度から5月10日から19日までを竹原市不祥事防止強化旬間と定め、各校での取り組みを強化しております。

また、信頼される学校づくりには、教職員の資質の向上が最も求められるところです。今後とも引き続き指導力向上のための研修等の充実や服務規律の確保を図り、教職員一人一人の能力、適性に応じた人材育成に取り組んでまいります。

第5の充実した教育環境づくりについては、1、学校の適正配置、2、学校環境の整備、3、安全・安心な学校、地域を掲げております。

学校の適正配置では、集団の中で切磋琢磨する教育環境を充実するため、引き続き保護者、地域住民の皆さんと協議を重ねながら理解を得られるよう努めてまいります。

学校環境の整備では、保護者などのニーズに応じ、通学区域の弾力化及び小中一貫教育の推進に向けて取り組むとともに、教育用コンピューターや電子黒板などのICT環境の整備に取り組むこととしております。

まず、通学区域の弾力化などについては、今年度10月に、小・中学校に入学する予定の保護者を対象に、幼稚園、保育所を通じて、通学区域に関するアンケート調査を行い、約800名から回答をいただいたところです。今後これらの考察を進め、通学区域の弾力化及び小中一貫教育の推進を図るよう努めてまいります。

また、ICT環境の整備では、昨年度、国の補助事業を活用し、校内LAN及び全学校教員用パソコンの整備を初め、市内全小・中学校に1台ずつの電子黒板を導入することができました。また、中通小学校に国の指定事業を取り込み、全学級で電子黒板を用いたICT活用教育を実施しております。この実践をもとに研修会を充実させ、市内の教職員のICT活用指導力の向上にも取り組んでおります。

さらに、児童・生徒が1日の大半を過ごす場所である学校の安全・安心を確保するために、施設の維持、修繕及び改善に努めております。御承知のように、本年度、竹原小学校、竹原西小学校、竹原中学校、忠海中学校については、耐震化工事に着手しているところです。また、安全・安心な給食を提供するために、給食センターを整備し、一部業務の民間委託などの効率的な運営を推進することとしておりました。おかげをもちまして、今年度9月から新学校給食センターからの配食が実施できる運びとなりました。

終わりに、児童・生徒の通学の安全・安心を確保するために、地域や関係機関の皆様の御協力を得て、防犯パトロールなどの実施をいただき、これまで大過なく登下校することができております。引き続き家庭、地域との連携を密にとりながら、学校を支援していただける体制づくりに取り組んでまいります。

以上、基本方針に沿って御説明をさせていただきました。

議員御指摘のとおり、人口減少など社会環境は流動的であり、国の施策も変動してまいります。竹原市教育委員会としましては、目指す教育ビジョン、すなわち「夢をもち 子どもが輝く教育」の実現に向け、適切な教育方針を立て、効果的な方策により着実な実

践、行動、評価を行い、この変動の時代を乗り越えるべく鋭意努力してまいり所存であります。

今後とも竹原市教育の発展のために、関係機関、関係部署と連携しながら、しっかりと取り組んでまいりますので、御支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

以上、答弁といたします。

議長（脇本茂紀君） 7番。

7番（片山和昭君） それでは、再質問を行わせていただきます。

まず、まちづくりの展開方向についての竹原市の主要課題よりお聞きをいたします。答弁については、大ざっぱな回答がございましたので、もう少し掘り下げて質問をさせていただきたいと思います。

まず1番目の本市の自然、歴史、文化等、魅力の構造、創造、アピールについては、やはり自然を生かすための整備がどうしても必要じゃないかと思っています。例えば、宮島のもみじ、有名でございますが、あれも全く自然のままではなく、景観を考えて植えていると、管理しているとお聞きしました。やはりそういったことが自然を生かすためのとるべき行動だと一つはと思っています。そして、それを生かすために、小公園等、景観場所を積極的につくるべきではないか。例えば、小吹の竹林、整備もまだまだ必要ではございますが、そういったあたり、バンブー公園はございますが、もう少し小さな本当に一服できるような公園というものを考えてはどうか。また今井さんのところの上のほう、いつも言っているわけですが、本当に竹原市の中で一番景色がいいようなところ、やはりそういったところ、島がよく見える、海がよく見える、そういった木の間伐とかベンチを置くとか、本当にささいなことで結構であります。そういったことを積極的につくっていただきたいと思っています。

それと、文化面については、いつごろだったか、テレビドラマで「川柳のまち」というような形で竹原が紹介されておりました。今でも川柳が盛んでございますが、そういった何々のまちというような、やはり全国的に名前が売れるようなアピールの仕方があると思います。スポーツもそうですが、スポーツ、相撲、剣道、陸上、何かにつけて、安芸津の安芸乃島関が出たときには、毎場所、豊田郡安芸津町というのが出るわけですね。それだけでも全国的にもうアピールになるわけです。やっぱりそういった細かいことをぜひ考えていただきたいと思っています。これは長いんで、3つぐらい一緒に質問をしたいと思いません。

2番目の交流、定住を進める条件整備として、企業誘致、雇用対策。この前、専門員を配置して取り組んでいるということになっておりますが、その後、変化があったのかどうかをお聞きしたいと思います。

3番目に、誇れる学びと人づくり。これは学校教育ではなく、子供から高齢者まで、だれもが学び、さまざまな体験ができる環境の充実が必要と考えておりますが、これは生涯教育として、まちづくり推進課ができているわけですが、現況はどういう成果があって、どう変わっているのかを質問したいと思います。

もう1点、健康でいきいきと暮らせる安心な環境づくりにおいて、健康、福祉、医療サービスにおいて、この中では、答弁の中にはございませんが、産科医療への取り組みは、その後行っているのか、話が出ているのか、そのあたりをまずお聞きしたいと思います。その4点を答弁お願いしたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 順次答弁願います。

都市整備課長。

都市整備課長（有本圭司君） まず、1点目の御質問でございますが、本市の自然、歴史、文化等の魅力の創造、アピールについて、例えば、自然を生かすための整備とか、小公園等の景観場所を積極的につくるべきではないかという御質問でございますが、これにつきましては、まず公園ということになりますと、公園の設置基準につきましては、都市計画法とか都市公園法に基づきまして、住民の野外における休息、鑑賞、遊戯、運動その他レクリエーションに供するとともに、都市の環境、整備、それから改善を図って、もって都市の健全な発展と円滑な都市の活動を確保することを目的に、標準的な対象人口によりまして、地域の実情、利用目的に応じて公園を計画して整備するということになっております。

それから、公園整備、緑地等につきましては、市民に親しまれる、利用しやすい、それから自然と人との共生、実現できる本市の特性を生かした公園づくりに取り組んでいく必要があるものと考えておりますし、また公園、緑地を有効的に利用するためには、市民との協働による管理とか活用等につきましても取り組んでいく必要があるというふうに考えております。

自然を生かした公園とか、あと景観のよい小公園などにつきましては、議員からの御提案をいただきましたので、今後、関係者と御意見を踏まえながら検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長。

産業振興課長（中川隆二君） それでは、2点目の企業誘致専門員の関連でございますけれども、まず、本年7月に企業誘致専門員は嘱託配置をさせていただいております。嘱託員につきましては大手電機メーカーに勤められ、グループ企業の経営役員の経歴を持った方でございます。この経歴を生かしまして、現在、関連企業への訪問、また関連企業の懇談会等への出席をするなど情報収集をさせていただいております。あわせまして、立地予定の企業の潜在的な情報を把握すると、そうした中で効率的な誘致活動を展開するというようなことで、現在、大手ゼネコンが持ちます企業情報を活用した企業立地アンケートというのを取り組んでおりまして、収集しました情報をもとに、訪問リストを作成して、誘致活動を行ってまいりたいというふうに思っております。

変化があったかどうかということにつきましては、この大手ゼネコンとの共同した立地アンケートにつきましても、今回、この企業誘致の嘱託員を配置したことによりまして、県であるとか、そういった関連企業へのアピールといいますか、PR効果につながりまして、先方のほうから一緒にやりませんかというようなことでの話が動いているというようなことでは、一定にはそういった変化があったというふうに考えております。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 文化生涯学習室長。

文化生涯学習室長（西口広崇君） 文化スポーツの活用による竹原市のアピールという質問なんですが、文化等につきましては、文化団体連盟に加盟されている三十数団体、いろんな活動をされている団体があります。その団体と、あるいはスポーツにおいても体育協会へ加入されている各種競技の団体等々と協議を行いながら、その団体を活性化させて、スポーツあるいは文化、一番になれるような、有名になれるような選手を育成していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 市民健康課長。

市民健康課長（森野隆典君） 4点目の産科医療への取り組みはその後という御質問についてでございますが、これは東広島市での産科・周産期医療施設整備ということでございまして、これにつきましては、整備スケジュールにおくれはあるものの、現在、実施設計を済ませ、この後、建物整備、機器整備に取り組んでいくこととしております。

以上です。

議長（脇本茂紀君） 文化生涯学習室長。

文化生涯学習室長（西口広崇君） 生涯教育として、まちづくり推進委員会ができ、どう変わってきたかという御質問なのですが、まちづくり推進委員会の中に文化生涯学習室、あるいは協働推進係が設置されております。その室と係と連携をとりながら、文化生涯学習室のほうは公民館、教育機会の提供という形で支援をしていく。協働推進係のほうとしましては、住民自治活動の支援ということで住民自治の支援をしていく。その公民館と住民自治組織が連携を図りながら、よりよい地域づくりを進めていくというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 7番。

7番（片山和昭君） 一生懸命やられていることは感謝しておるわけですが、やはりこれは取り組みますではなく、即実践的に取り組んでいきたいというのが本音であります。本当に文化、スポーツ一つにおいても、取り組み方一つで全然意味が変わってきますので、そういったことを特に担当者の方、よろしくお願いいたしますと思います。

それと、雇用については、大手ゼネコンとかいう話が出ているわけですが、これは雇用されるほうはゼネコンでなくても中小企業でも、とにかく雇用の場所が要るわけで、その辺も考えていただいて、やはり大手ゼネコンとなると、それだけの学習能力、技術能力、そういった面で規制をされてまいります。そういった面で中小企業なども含めて雇用をふやしていただくように、ぜひ早急に取り組んでいただきたいと思います。

それと、産科医療への取り組みであります。これ東広島への集中的取り組みということで今言われたわけですが、これはやはり今、竹原市が産科医療にかかるとすれば、東広島か三原ということで、皆さん大変苦勞しております。やはり竹原を中心とした考え方というものは捨ててはいけません。もし東広島、三原を主体にするのであれば、それらの交通条件とか補助条件、そういったものをやはり一緒にして考えて、確立していただけないと、人口減少でも、やっぱりここに住みたいというのは、その条件が大きな条件の一つになっておりますので、ぜひその辺を東広島にあるからというわけではなく、竹原を中心に取り組みを進めていただきたいと思います。それはお願いしておいて、次に行かせていただきます。

5番目の安全、快適な美しい環境づくりであります。防災対策としての昨年の自然災害の教訓も含め、危ないと考えられるところがわかっていると思いますので、積極的に前もってなくしておくべきではないかと考えます。また、消防救急体制強化については、消防団の指導による市民の避難訓練などの必要性を感じますが、いかにお考えでしょうか。

そして災害時の水利の確保としての防火水槽設置については、その後どうなっているのか、お聞きしたいと思います。中でも、具体的に毎年のように危険にさらされている賀茂川西岸土手の強化を考えたことがあるのかどうかをお聞きしたいと思います。

それと6番目に地域経済の元気づくりであります、特産品の開発、ブランド化について現状はどうなっているのか、研究会など開いているのかどうかをお聞きしたいと思います。

7番目に、基礎自治体としての基盤強化と協働のまちづくりであります、市民と行政とのパートナーシップの必要性を言われておりますが、分権改革の名のもとに事業の下請になる危険性も含んでいるので、正確な理論と予算の執行を確実にしてこそ地方分権に対応できると思っております、いかにお考えかをお聞きしたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 建設課長。

建設課長（柏本浩明君） 最初の防災対策につきましてでございますが、これは常時、日常のパトロールとか自治会の連携によりまして、現地の確認や定期的な危険箇所の確認を行いまして、関係機関と連携いたしまして、急傾斜崩壊対策事業など、ハード事業を進めているところであります。また、賀茂川の河川改修につきましては、現在、県において設計等が行われておりまして、引き続いて早期実施について県に要望してまいり、災害に強いまちづくりに努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 総務課長。

総務課長（桶本哲也君） 防災対策ということで、市民の避難訓練等の必要性、どのように考えるかという御質問でございます。近年の異常気象によります集中豪雨などから身を守り、安心して生活を行うという、こういうことのためには地域ぐるみでの防災体制を構築する必要があると考えております。そのためには自主防災組織の育成強化に努める、こういうことが必要だと思っております。地域において、災害発生時の役割分担などの体制、あるいは災害時要援護者、あるいは避難経路などの情報を共有しておく。こういうこととともに、地域が一体となった防災訓練や避難訓練を実施しまして、防災意識の高揚を図り、有事に備えておくということは大変重要なことと考えておりますので、引き続き消防団あるいは地域と連携協力しまして取り組んでまいりたいというふうに考えております。

それから、防火水槽についての御質問がございました。消防水利につきましては、各地域の実情を勘案しまして、災害発生時における初期消火、延焼防御、その他二次災害の防止等、住民の安全確保を最優先として防火水槽等を設置しているところであります。災害

有事の際の備えを充実するという観点から、水利の必要性を十分に考慮いたしまして、防火水槽以外、河川、ため池等の自然水利の活用による消防水利の多元化などについても、今後、消防機関等と協議、調整を図る中で対応をまいりたいと考えております。

具体的に、防火水槽の設置についてという御質問でございますが、総合計画において、総合計画の実施計画の中で、21年度から23年度の中で設置をするというふうに計画をいたしております。来年度、予算計上をさせていただき、取り組んでまいりたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長。

産業振興課長（中川隆二君） それでは、特産品の開発、ブランド化の状況について御説明申し上げます。

まず、特産品の開発につきましては、市、商工会議所、生産者、事業者など、関係者が連携をして取り組みを進めております。現在、小吹産タケノコを用いた加工品とか料理を試作中でございます。こうした商品化に向けた会議は開催をしている状況でございます。

今後の予定でございますけれども、年明け1月末から2月の初旬にかけて、バイヤー等が参集するイベント会場、こちらのほうに試作品を持ち込みまして、専門家の意見も踏まえて、意見を集約していく予定ということになっております。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長（大澤次朗君） 市民と行政がより一層強いパートナーシップを築き、協働のまちづくり推進に取り組んでいるが、市民が事業の下請になってはいけない。そのためには協働のまちづくりの必要性、また、それに伴う予算の執行についてという趣旨の御質問であったと思います。

まず、平成17年度に策定いたしました協働のまちづくり推進プランに基づき、自治会の枠を超え、市民活動団体、またその他関係機関が連携し、地域づくりを担っていくことができるよう、今現在、住民自治組織づくりを重点に掲げ、市内十何箇所に取り組んでいるところであります。また、それに合わせて、その設立された後には、地域がみずからの課題を解決するための5年間の地域行動プランの策定に伴う支援として、市として地域協働住民自治組織支援助成金を交付しているところであります。

御存じのように、これまで行政主導ではなく、地域の実情に応じた市民主役のまちづく

りを推進することで、地域における住民自治基盤であるコミュニティーの充実及び住民自治能力の向上を促進しているところであります。これらのまちづくりには、市民と行政がより一層強いパートナーシップを築き、それぞれの持てる力を発揮し、連携協力のもとまちづくりを進めていく必要があります。

議員御指摘のように、協働のまちづくりを進める中で、市民が事業の下請になるということは当然あってはならないことであり、そのようなことについては、真の協働のまちづくりの取り組みとは言えないと考えております。

パートナーシップを築くためには、相互理解、目的の共有、対等であることは基本でありますので、それぞれの役割に応じた義務と責任を果たすことが大切であると考えております。市民と行政が真のパートナーシップを築くため、自助、共助、公助の視点のもと、行政と市民が対等、連携しながら、市民満足度の高いまちづくりの実現をしていくことが大切であり、その実現のためには、まちづくり推進プランでも掲げておりますように、財政支援はもちろんのこと、活動の拠点あるいは情報の共有、また人材育成等、今後も引き続きさらなる取り組みに進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 7番。

7番（片山和昭君） この中で消防救急体制の強化についてであります。何年か前に高潮対策のときに、やはり避難経路とか避難場所、そういった冊子をつくって消防団ともたしか話をしたことがあると思います。今、もうちょっと忘れかけておりますが、その避難場所についても、やはり昔ながら小学校とか公民館とか、バンブーとかといったようなところがありまして、とてもじゃないけど、危ないからそこまで行かれはせんわいというような感じであったわけですが、その後、集会所などを補助的役割として指定していただきましたので、その辺は少しはやりやすくなったわけですが、やはりそういった見直しも含めて、もう一度自然災害についての取り組みをまとめていただきたいと思います。特に消防署が向こうへ行ってから、なかなか議員とも話をする機会もありませんので、頼りになるのは、やはり地元の消防団ということで、今度は総務課の関係になると思いますけれども、その辺でしっかりとまとめていただきたいと思います。

それと、防火水槽については、災害型の防火水槽ということで、消防署が東広島に事務委託する前の年に県の取り組みが始まりまして、委託された後の年でも順次取り組むということで流れが動いていたと思うんですよね。それで、適当な場所に三、四点集まればそ

のぐらいつつ設置をしていくという、たしかそういう約束になっておりました。ですから、その辺をもう一度確認されて、県の補助対策になるかもわかりませんが、動いているものをやはり早急に速やかに実行していただきたいということをお願いしておきたいと思います。

それと、時間も少なくなりましたが、人口減少の中で、特にお願いをしたいのは、基盤整備について、今、新開の基盤整備をやっているわけですが、中央の整備だけでなく、やはり市民それぞれ税金を払っているわけですから、田舎のほう、特に隅から隅まで行き渡るように整備をお願いしたいと思います。例えば、道が1本できるだけでも家が建ちますし、人口もふえます。そういった面でその辺をしっかりとまとめていただきたいと思います。

それでは、時間がありませんので、次へ行かせていただきます。

3番目の学校教育について。特に今回は細かく説明をいただいたわけですが、学校現場での内容には敬意を表しているところもございます。確かに一生懸命やっておられます。ここで私が聞きたいのは、やはり行政と学校現場等をつなげる教育委員会の役割、そういったものを少し教えていただきたいと思います。

まず、幼稚園と保育所がございますが、担当省庁が違う関係もあって、随分内容が違います。まず、学校教育についての幼稚園とは何だろうか。就学前教育とは、こういったものか。そういったものがどうもわかりにくいところがあります。福祉のほうの保育所は随分いろんな面で優遇というんか、受けていると思います。幼稚園、竹原市では大変少ないんですが、幼稚園2園、やはりその辺の同じような子供を育てるわけですから、同じようにやっていただきたいというような考えでございますので、その辺をひとつ教えていただきたいと思います。

それと、先日、文科省の学級人員定数を40人から30人に下げるということで新聞報道に出ておりました。それと、それに従って教師の増員をするということなんですね。これは竹原市の現状とあわせてみましたら、ちょっとまた方向性が変わってきているような感じがするわけです。次の適正配置にも関係することですが、やはりその辺の考え方をどうとらえるのか、それをちょっとお聞きしたいと思います。

適正配置については、決して予算本位とならないように、一般質問の冒頭にも言ったわけですが、教師としての教育の立場でやはり取り組みを教育委員会にしてほしいという考えがありますので、その就学前教育の意義と学級人員定数を下げて教師をふやすと、こう

いった中央の動きに対して、竹原市の教育委員会がどうとらえているのかをまずお聞きしたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 建設課長。

建設課長（柏本浩明君） 隅々まで行き渡る基盤整備ということで、道路、河川、用排水路等の改修等々につきましては、自治会等との連携によりまして、市内全域で現地を確認をしながら緊急度を勘案する中で対応しているところでもありますので、よろしくお願いたします。

議長（脇本茂紀君） 学校教育課長。

教育委員会学校教育課長（亀井伸幸君） 幼稚園就学前教育等御質問いただきました。

まず、幼稚園につきましては、学校教育法の第22条で、そこに幼稚園は義務教育及びその後の教育の基盤を培うものとして幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とすると示されております。言いかえますと、遊びを通して小学校以降の生活や学習の基盤を育成するものというふうに理解しております。就学前教育というのは、そうした生涯教育の視点から見まして、学校教育に入る前の子供たちの自立の芽を培う、そういう大切な時期の教育であるというふうに考えております。

また、文部科学省のほうが表示しておりますところの学級人員定数の変動ということでございましたけれども、このことにつきましては、学校規模と教職員の配置の適正化を図るため、学級編制及び教職員定数の標準に関する法律というところにおきまして、これまで同学年の児童・生徒で編制する学級は40人というふうに定められております。このたびの報道等で明らかになりましたように、来年度から小学校第1学年を35人学級とするというような国からの方針が明らかになったばかりであります。これによって竹原市内の小学校はどのように変化するかというのは、非常に微妙なところでございまして、今の予定では、竹原小学校の1年生のところはぎりぎりのところございまして、2学級になるか1学級になるかというふうなことがこれから予想されます。教育委員会としましては、より細かな指導ができるようになるのではないかと、大変期待しているところであります。また、制度の動向を見きわめながら、今後、適切に対応してまいりたいと思います。よろしくお願いたします。

議長（脇本茂紀君） 7番。

7番（片山和昭君） 今、聞いたところでは、幼稚園就学前教育、やはりこれは大変必要

であるというお答えだったろうと思うんですが、もう1つ聞いてみたいんですが、これは具体的に、先日、大乘の幼稚園で地域懇談会というんか、そういうのが開かれたそうではありますが、その中で、やはり入園数の問題とか時間の問題、それとか3歳児の問題とかいうのが恐らく話し合われて、私はちょっと所用で参加できなかったんですが、聞くところによると、そういうことが話されたということなんですが、結果的には3歳児の受け入れは難しいと、時間の延長も無理だということですよ。人数がいなければ複式学級にすると。これはもう当たり前のことでありますけど、そういったことが話されたのではないかとということなんですね。

それで、3歳児の問題については、竹原市の市立幼稚園の管理条例とかいうのがあるんですよ。その中に第3条に、幼稚園に入学することのできる者は、竹原市に居住する満3歳から小学校入学の始まる時期に達するまでの幼児とする。ただし特別の事情がある場合は、この限りでないというのがあるんですよ。条例にあるんですよ。だからやっぱり3歳児は無理だとか、そういうことを言ってもらったら、これは条例を守っていないということになるので、その辺はやはり考えて物を言ってもらいたいと思います。竹原市の幼稚園でございますのでね、大切なお子さんを預かっておるという意味で、預からせていただいているという意味でやっぱりやっていただきたいと思います。特に私もよくわからないんですけど、何かマイナス的な要素で行っているというような感じがしますので、ぜひ存続するためにどうやったらいい形になるかとかいう前向きな発想で懇談会を進めていただきたいと思います。国のほうでも保育所と一体化するとか、いろんなやり方が現在出ていますので、そういうのも含めて前向きで考えていただきたいと、ぜひその辺をお願いしたいと思います。

何回も言うようですが、やはり大事な子供が安心して伸び伸びと育つということが第一番ですので、世の中変わってまいりますけど、ぜひ情勢を的確にとらえて推進していただきたいと思います。私もまだいろいろと勉強しなければいけませんけど、そういった面で子供を大事にしていきたいと思います。

返答は要りませんが、そういうことでよろしくお願いをします。

時間になりましたので、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（脇本茂紀君） 以上をもって片山和昭君の一般質問を終結いたします。

午後1時まで休憩いたします。

午前11時21分 休憩

午後 1時00分 再開

議長（脇本茂紀君） 午前中に引き続き一般質問を行います。

質問順位2番、大川弘雄君の登壇を許します。

4番（大川弘雄君） それでは、平成22年12月の定例会ということで、大川が一般質問をさせていただきます。

さきの9月定例後、11月14日の市議会選挙があったせいでもないと思いますけれども、この長い間に前代未聞とも言える出来事が多々起こりました。尖閣諸島近海での中国国籍船の不審行動であったり、さらに朝鮮半島においては他国に砲撃を加えるという有事があったり、いつ戦争が勃発してもおかしくないアジア情勢であり、平和大国の我が日本を基準に見ると常識の域をはるかに超えたものばかりであります。そのような中、我が国の危機管理をどうすべきか、有事が想定されるとき、または有事の際にとるべき対応を議論しなければならない大事なときに、このようなときに広島県選出の大臣が問責決議を受け、また、辞職したり、沖縄の米軍基地問題を受けての政府の対応が二転三転したりと国政に対して不信感を感じざるを得ないのは私だけでしょうか。このような日本国であります。一転私たちの竹原市に目を移しますと、これまた課題山積でありますので、通常の一般質問に入りたいと思います。竹原市の市会議員ですから竹原市の一般質問を行います。

まず最初に、バランスの悪い年齢構成と「人口の加速的な減少」について質問します。

先日の委員会後、建設産業部長から20年後の竹原市の人口は約2万1,500人、下水道の計画処理人口は1万8,780人となり、人口3万4,000人当時の計画処理人口3万500人の計画を変更したいという趣旨の説明がありました。2030年においては、私たち議員も、もしかしたら町会議員になっているのかと、それほど急激な人口の減少であります。ぜひもう一度いかにして竹原市の人口をバランスよく増加させるのか、施策の議論が必要ではないでしょうか。それには、私が考えているのは、竹原市役所職員の市内への居住をお願いすることであったり、市民の新婚さん用の市営住宅の建設であったり、大きく言えば雇用の創出であったり、国道、県道、幹線道の道路網の構築などではないでしょうか。これについてももう一度どのようにお考えか、あえて質問させていただきます。

2番目として、「道の駅・たけはら」がオープンしたわけでありましてけれども、この運営についてです。

オープンからはや2カ月が到来しようとしておりますけれども、運営の状況、問題点、課題点を聞いておりますので、これに対してお聞きします。

3番目として、「たけはら給食センター」の運営です。

調理部門、これを初めて民間委託したわけでありましてけれども、問題点、課題点がありましたらお聞きしたいと思います。また、民間委託、これが初めてのことで、生徒、先生、保護者にアンケートを実施してはいかがでしょうか。

4番目として、公設民営、これで行う「竹原ケーブルテレビ」について、現在の状況、また、経営上の採算ベース、これが以前聞いたものと変わっていないのか、もう一度お聞きします。

5番目として、現在行われている特産品の開発の状況と今後の展望、市民の皆様の期待度をお聞きしたいと思います。

6番目として、災害時のコントロールセンターとなる市役所庁舎・避難場所となる各小・中学校の体育館、これの耐震強度は大丈夫であるのか、これをお聞きします。

7番目として、公園についてお聞きします。

竹原市内には通称バンブー公園といった面積の広いものもありますが、その他は狭い公園、または山の上にある公園が多く、テニスやグラウンドゴルフ、このようなスポーツができる公園が少ない。また、事、犬の散歩は禁止だそうです。もう少し市民の皆さんに利用、活用していただけるような公園を考えてはいかがでしょうか。特に、高齢者の方には病院に毎日通うのではなく、公園に毎日通っていただき、元気で楽しい毎日を送っていただくではありませんか。

最後に、ジェイパワーの1号機、2号機でありますけれども、これが新1・2号機の建設の計画であります。この建設は竹原市にとって多大な税収の増となり、雇用の創出にもなるのでだれもが考えるところであり、当の私も大賛成であります。さて、実際のところ税収面、雇用の面など竹原市にとってどれほどのメリットを想定しているものか想像もつきません。わかる範囲での表現をお願いいたします。

壇上での質問を終わります。

議長（脇本茂紀君） 順次答弁を願います。市長。

市長（小坂政司君） 大川議員の質問にお答えをいたします。

3点目については教育長が、6点目から8点目までについては副市長がお答えをいたします。

まず、1点目の御質問についてであります。我が国全体が平成17年から人口減少社会に移行し、とりわけ地方における人口減少が顕著となっている状況の中、本市においては、昭和55年の3万6,895人をピークに人口減少が続いており、現在は2万9,000人台で推移し、高齢化率も30%を超えるなど国や県よりも少子・高齢化が進んでいる状況があります。

人口の増減を決定する要因は、出生、死亡という自然増減と、転出、転入という社会増減の2つの側面がありますが、今日の我が国の人口減少は、1970年代から始まった出生率低下による出生数の減少、いわゆる少子化の進行によって生じたものであるとされております。

また、社会増減につながる人口移動については、地方から首都圏を中心とした都市部へ人口の集中が加速している状況にあり、総務省が公表しました平成21年の都道府県別の人口移動状況によると、転入が転出を上回ったのは東京都など10都県のみで、他の37道府県は転出超過となっております。

少子化による構造的な人口減少に対する対策としては、まずは国において抜本的な対策を講じることが必要であると考えますが、都市への人口流出に歯どめをかけるためには本市も含め各自治体において地域の特性を生かした施策を講じていく必要があると考えております。

本市におきましては、総合計画において目指す将来像に住みよさ実感を掲げており、とりわけ市から転出する人口に歯どめをかけるとの観点から、本市の持つ自然環境や歴史、文化、コミュニティーなど持てるもの、いわゆる底力を発揮し、暮らしの豊かさなどを高めることで住み続けたいまちを目指すとともに、訪れたい、住んでみたいまちに向け交流人口の拡大から定住につながる施策に取り組むこととしております。

今年度におきましても、元気で住みよい竹原市づくりへ向け、住みよさ実感の基礎固めを強化する観点から、例えば保育料負担軽減事業や乳幼児医療費支給事業などによる次代を担う人づくりや、企業誘致体制の強化や就職ガイダンスの実施などによる新規雇用の場の創出に取り組むとともに、土地区画整理事業や公共下水道整備事業、都市計画道路事業や市道整備事業などの基盤整備にも引き続き取り組んでいるところであります。

今後とも教育や子育て環境の充実、企業誘致や雇用対策の推進、保健、福祉等の充実、安全・安心なまちづくりや快適な生活環境の充実など、暮らしの質の向上等を図り、元気で住みよい竹原市を目指してまいりたいと考えております。

次に、2点目の御質問についてであります。さきの10月23日にオープンいたしました道の駅たけはらにつきましては、情報発信、交流促進、にぎわい創出の拠点であると同時に、防災機能を有した市民の安全・安心の拠点として、休憩スペース、トイレ、駐車場など基本的な施設のほか、道路情報、地域情報の提供、地域産品等を活用した飲食や物販活動、産品開発等の促進、市内及び近隣地域の観光情報の受発信、屋内屋外の交流スペース等を活用した定期的なイベント開催、地域コミュニティーへの対応など多くの役割を担っており、それらを適切に管理運営することとしたもので、その管理運営方式については、当面、直営方式において開設したところであります。

現在、施設管理の全般とイベントスペースや地域交流スペースの利用受け付け及び観光案内や情報の提供に関する公益的な部分は主に市が役割を担い、レストランや売店に関する収益的な部分は、市と商工会議所で構成された地域ブランド推進協議会がその役割を担うことで管理運営している状況であります。

オープン後の利用状況につきましては、10月期の1日平均では売店等のレジ通過者で申しますと利用者数が989人、売上高が約107万円で、11月期の1日平均では利用者数が584人、売上高が約72万円で、開設準備中にもくろみました目標営業売上高に対して、およそ200%から140%で推移しており、まずは好調な滑り出しであったと感じております。

運営面での課題や問題点等につきましては、利用者から寄せられた御指摘では、定休日や営業時間に関する事、駅舎がわかりづらいなどの意見が多く、接遇に関する御意見をいただいているところであります。

このため、これら貴重な御意見を参考にさせていただき、施設関係では、駅舎の表示や施設内の誘導案内を改善したり、あわせて周辺施設への案内サービスを充実させることや、きめ細やかな接遇が可能となるよう、提供商品の販売に係る体制を強化、充実させる等、人的な資質向上も含めて改善を図ってまいりたいと考えております。

市といたしましては、平成24年4月からの新たな管理運営へ移行するまでの直営管理期間中において、公益的、収益的な両面を兼ね備えた施設のサービスの向上方法を検討するとともに、本市に求められる生産から加工、販売に至る新たな産業創出の一翼を担う施設となるべく、さまざまな検証を行いながら、道の駅たけはらの安定経営に向けた方策を取りまとめまいりたいと考えております。

次に、4点目の御質問についてであります。地域情報通信基盤整備事業につきまして

は、本年8月の第4回市議会臨時会において、工事請負契約の締結について議決をいただき、以来、事業者とともに工期内完了に向け、関係事務、各種工事に鋭意取り組んでいるところであります。

ケーブルテレビの加入状況等につきましては、12月28日までを初期費用が定額となる期間として定め、加入促進を図る中、12月15日現在で、加入件数は1,800件余りとなっております。

採算がとれる加入率につきましては、35%から40%と考えておりますが、本市としましては、今回のケーブルテレビ事業を活用することにより、行政情報を初め、防災情報、地域での催し物など地域に密着した情報、市民の皆さんの暮らしに役立つ情報の発信をすることとしており、今後におきましても、加入促進に努め、一人でも多くの方へ加入していただき、地域の活性化、元気で住みよいまちづくりにつなげてまいりたいと考えております。

次に、5点目の御質問についてであります。特産品開発は、竹原の食と農林水産資源を活用して高付加価値化を図り、地元産にこだわった竹原ブランド製品を確立し、その生産、加工、販売を一体的に行う組織づくりを目指し、県の雇用創出基金事業や日本商工会議所の地域資源∞全国展開プロジェクト事業などの支援策を活用しながら、市、商工会議所、生産者、事業者など関係者が連携して取り組みを進めているものであります。

現在の具体的な取り組みにつきましては、小吹産タケノコを用いた加工品や料理の開発であり、地元生産者、料理店、加工業者など関係者の方々が集まり、さまざまな試作品を持ち寄った中で、試食をしながら商品化に向けた会議を開催されている状況となっております。

この施策の段階では、タケノコだけでなく、竹原牛や吉名産ジャガイモなどの食材を絡めた料理のアイデアも出されており、20数点の候補の中から商品化をにらんで10点程度に絞り込んだ上で、見た目や味つけだけでなく、パッケージを工夫するなど、さまざまな観点から意見を交わしておられ、年明け1月末から2月初旬には、バイヤー等が参集するイベント会場へ試作品を持ち込み、専門家の意見も踏まえて意見を集約していく予定となっております。

市といたしましては、今後も相当の市民から期待されるよう、関係者の熱意がこもった商品が一日も早く完成するための支援を引き続き行ってまいりたいと考えております。

以上、私からの答弁といたします。

議長（脇本茂紀君） 副市長。

副市長（三好晶伸君） それでは、私のほうから6点目から8点目について御答弁を申し上げます。

まず、6点目の御質問についてであります。本市の耐震改修等の対応につきましては、国の方針、広島県の耐震改修促進計画に基づき、その期間を平成21年度から27年度までの7年と定め、大地震発生時における建築物の倒壊などから、市民の生命、身体及び財産の被害を軽減するため、新耐震基準導入以前の既存建築物の耐震化を図り、建築物の地震に対する安全性の向上を計画的に促進するという竹原市耐震改修促進計画を策定し、計画的に耐震診断及び耐震改修に取り組んでいるところであります。

災害発生時に避難場所となる公共施設の耐震化については、災害有事の際には不特定の住民が利用することから、耐震改修促進計画に基づき耐震診断などに準じ取り組み、その安全性を確保する必要があると考えております。

今後において、災害発生時の拠点施設である市役所を含め、避難場所となる施設の耐震診断結果を踏まえ、対応方針とその方策について、協議検討を進めてまいります。

なお、各小・中学校の体育館につきましては、今年度、大乘、中通、竹原、忠海西小学校の4校の耐震診断を実施中であり、平成23年度においては、竹原、忠海中学校の2校の耐震診断を予定しており、他の避難場所となる施設と同様に、安全性の確保に努めてまいります。

次に、7点目の御質問についてであります。公園は人々のレクリエーションの空間となるほか、良好な都市景観の形成、都市環境の改善、都市の防災性の向上、生物多様性の確保、豊かな地域づくりに資する交流の空間など、多様な機能を有する都市の根幹的な施設として、市内に13公園を設置しております。

この公園は、さまざまな目的で設置しており、主に街区内に居住する人を利用対象とした街区公園として、本川公園や内堀公園など9カ所、また、街区区域を包含した近隣に居住する人を利用対象とした近隣公園として中央公園と冠崎公園の2カ所、市民全般の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動など総合的な利用に供することを目的とした総合公園として、バンブー・ジョイ・ハイランドと的場公園の2カ所を設置しており、整備面積は約50ヘクタールで、市民1人当たりの公園面積約16平方メートルと、県平均約11平方メートルを上回っております。

そのため、現在の公園すべてにさまざまな要素を含ませるのではなく、スポーツなどに

つきましては、バンブー・ジョイ・ハイランドにおいて多目的グラウンド、体育館など目的に応じた利用や活用を進め、さらに本年度、既存のテニスコートの利便性の向上を図るため、夜間でもプレーが可能となる照明灯を設置することとしております。

また、既存公園での犬の散歩につきましては、一般公園利用者とのトラブル、人的被害による危険性、マナー不足などによる公衆衛生面や維持管理上の観点から、御遠慮いただいております。

既存公園による利活用については、本年度より実施しております公園芝生化推進事業により、地域の主体的な行動による公園の利用や芝生化による多目的な用途に使える空間の創出など、その利用の過程の中で現在の公園について、管理をしていただく方々や利用する方々とさまざまな課題などの対話を行いながら、地域の利便性の高い公園へとシフトするよう公園空間の再整備を計画しているところであります。

一方、現在、新開土地区画整理区域内において、都市再生整備事業としての公園整備事業に伴うワークショップを開催しているところであり、新しく街区が形成された新開地区の街区公園において、従来の手法のような行政主導型ではなく、アンケート調査の実施や地元自治会、子供会、一般参加者の皆様と一緒にワークショップを行いながら、みんなが長く使える・また、来たくなるような公園を目指し、来年度事業実施に向けて計画の策定に取り組んでいるところであります。

今後とも市内の公園整備については、子供から高齢者まで広く、市民の皆様に気軽に利用ができ、地域コミュニティが図れるような場所を創造してまいりたいと考えております。

次に、8点目の御質問についてであります。電源開発株式会社による竹原火力発電所の設備更新につきましては、これまでさまざまな観点から要望を行ってきたところであり、去る8月に、竹原火力発電所の1号機及び2号機について、2020年を目途に設備更新をするための環境影響評価に向けた準備に入ることが発表されたことは、地球温暖化問題などの環境面から、そして、地域活性化への波及効果の面からも、地元竹原市として大いに歓迎すべきことであります。

今後、この計画が順調に推進されることを願うとともに、市といたしましても、円滑に事業が進められるよう、地元経済界や議会、地元自治会の皆様と連携しながら、必要な支援、協力を行ってまいりたいと考えております。

この設備更新による税収面や雇用の面などに対する本市のメリットであります。ま

ず、税収面は大規模償却資産の増加によりまして、多額の増収が見込まれるものと期待しているところであります。

見込まれる税額につきましては、現時点において、設備投資の詳細が明らかにされていないため、課税対象を把握し税額を算定することは困難であります。税収が普通交付税の算定における基準財政収入額に算入されることを考慮すると、税収のおおむね4分の1相当額が歳入増として見込めるものと考えております。

また、雇用の面につきましては、多額の投資額が発生することから、新たな雇用創出につながるるとともに、市内事業者の受注拡大のほか、工事期間中において多数の工事関係者が本市に滞在することなどにより、市内の消費拡大が見込まれるなど、設備更新が本市経済に対しよい影響を与えてくれるものと期待しているところであります。

以上、終わります。

議長（脇本茂紀君） 教育長。

教育長（前原直樹君） 竹原市学校給食センターに関するお尋ねについてお答えいたします。

本年9月から市内11小・中学校に学校給食の提供を開始して以来、食の安全に関して、適切な運営を行っているところであります。

委託業者においては、学校給食衛生管理マニュアル（竹原市学校給食センター版）や竹原市の目指す給食方針を理解し、新しい施設設備や献立などに応じた調理を行い、効率的な業務運営が履行されております。今後も本市が定めた仕様、契約内容により、調理、洗浄業務等の委託業務が適切に履行され、学校給食の質を低下させることなく、効率的な運用を図り、安全で安心な学校給食が提供できるよう努めてまいります。

次に、生徒、先生、保護者へのアンケートの実施が必要ではないかと御助言いただいておりますが、教育委員会も児童・生徒の意見や感想を把握することはよりよい学校給食の運営に不可欠であると考え、竹原市学校給食センターが稼働して1カ月半が経過した10月18日に各学校に通知し、受配校の小学6年生全児童201名と中学3年生全生徒216名に実施いたしました。

アンケート実施の目的は、新センターでつくられた給食が児童・生徒にどのように評価されているかを知るため、また、毎年実施しております残菜調査を行うに当たり、児童・生徒が学校給食を残す理由を知るためです。

1点目の給食の味については、「ちょうどよい」が小学生40%、中学生30%、「薄

い」が小・中学生どちらも約50%、「濃い」が小学生6%、中学生4%、「その他」が小学生6%、中学生16%で、その他の理由は「その日によって濃い薄いがある」「おいしくない」などでありました。また、中学生のみに質問した「給食メニューについてどう思うか」については、「よい」10%、「普通」72%、「よくない」という厳しい意見も18%ありました。学校給食が薄味であるのは、味覚が成長途中である児童・生徒の将来に通じた健康に配慮しているからであります。摂取基準塩分量（3グラム未満）の範囲内で、できるだけ児童・生徒の嗜好に合う学校給食づくりを、関係職員と協議しながら行っていきたいと考えております。

あわせて行った給食メニューのリクエストにも、1月の献立からこたえていく予定にしております。

2点目の学校給食を残す理由については、「残さず食べている」と答えた児童・生徒は、小学生75%、中学生40%で、残す理由の多くは、「嫌いなものがある」「量が多い」でありました。現在の残菜率は平均約3%であります。学校と連携をとりながら成長期に必要な栄養素や摂取量を伝えていき、残菜の減少を図ってまいります。

教職員へのアンケートは実施しておりませんが、従来、密に連携を取り合いながら意見を把握しておりますので、今後もより一層学校給食の意義や食育の必要性などの研修を深め、児童・生徒の給食指導などを行うよう指導してまいります。

また、学校給食試食会へ参加いただいた約50名程度の保護者の方々からは、「薄味だけどおいしい」「家庭の味つけが濃いので、参考にしたい」などの御意見をいただいておりますので、今後もすすすくすくだよりなどを通じて、継続的に学校給食についての情報提供などを行いながら、学校と家庭が連携し、学校における食育を推進してまいります。

以上、答弁といたします。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず、竹原市では以前から一問一答の方式でやっておりますので、わかりやすいということで、引き続き私はこの方法でやっていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

また、改選がありまして、2期目、総務文教の委員長を仰せつかって頑張っていきたいということもあり、大変一般質問においても質問が難しくなったなという感覚を私は持っておりますが、そのあたりも御配慮いただきながら、思っていることの半分ぐらいしか言えないのかなという思いもありますが、ぜひよろしく申し上げます。

またきょうは、今回の定例会は、私にとって2期目の冒頭の定例会であります。新しく大川のスタンス、これを再確認したいという意味で9項目にわたる、大変量の多いものになってしまいましたので、そのあたりの御協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、まず1番目ですけれども、人口の減少というものは、去年からやっていた総合計画、これは10年間、これからの竹原の10年間をどうしていくかというところで、一生懸命議論をしたところでもありますけれども、この自然の増減と社会的な増減、こういうものがあって大変難しいんだということで、ある程度理解はしたんですけれども、いかんせん、この間の建設産業部長の説明がありましたね、下水道の、これの人口を聞いたときに、20年後というのはとんでもないことになっているんだなという思いが改めました。そういう意味から、先ほども同僚議員からもありましたけれども、再度人口問題ということ、そして、私はバランスのとれていないところが問題であるだろうと、人口が少ないだけが問題ではないというふうに思っております。ぜひこのバランスということに対して、小さい町は小さい町でいいと思うんですけれども、若い人からお年寄りまでバランスのとれた人口、こういうものを形成していく必要があるのではないかとということで質問させていただきます。

また、非常に質問しづらいんですけれども、この手の質問をいたしますと、国がやることだというふうにだれもが答えることであります。ただ、地方自治もありますので、できるところは地方自治で、ほかは国でということもあるんですけれども、それでは、抜本的な対策を国にお願いするということに対して、例えば竹原市のそういう政策を考えている人たちは人口の増加に対して、今2種類のものがありましたけれども、自然的なもの、社会的なもの、特に自然の増減に対してどのような抜本的政策を国に打ってほしいのかと、そういう感覚は抜本的なものを国にお願いしますというふうについていつも答弁があるんですけれども、あえて表現できればですね、例えば抜本的なものとはどんなものがあるのかお聞かせいただければ、今後の参考になるんですけれども、いかがでしょうか。

議長（脇本茂紀君） どなたが答弁しますか。

（「企画政策じゃろう」と呼ぶ者あり）

企画政策課長。

企画政策課長（豊田義政君） 少子化に関する国への抜本的なということでございますけれども、市長答弁にもございましたように、一定には少子化の問題、自然減の問題は国へということで、社会減の問題は一定程度地方でということでございますが、国においては現

在のところで子ども手当、それから各種手当によって子育ての支援ということをやられてはおりますので、そういった面で国にしっかりやっていただくように市長会などを通じてお願いしているところでございます。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） 大変質問が難しかったらと思うんですけども、ただ、今民主党さんが政権とられて、そういったことを初めてやっているんですけども、じゃ、それが本当に抜本的な解決につながるのかといたら、全員が全員そう思っていないと思うんですね。私は少なくともそうは思っていないです。ですから、そのあたりを我々を含めて、竹原市として、例えばこういうものをしていけば抜本的に改革になっていくんじゃないかというのをね、今までは個人個人の自民党議員の人であったり、各政党の代表であったりの人にいろんな場では個人的には言ってきたんだと思うんですけども、今からは市を挙げてこういった政策をやっていきますか、特区として竹原市は既にこういうものを行っていますという、先駆者的な活動が必要になってくるんじゃないかというふうに思っています。ですから、あえて質問させていただきました。ぜひ今からでもいいと思います。これからやっていかないといけないと思います。みんなでそういったものを検討していく、そういう場をぜひつくっていただき、その方向でみんなが国政に任せとけばいいんだというふうな感覚でなく、やはりみんなみんなが考えていかなければいけない。

だって、東京、大阪の人は関係ないですよ、人口減少になってないんですから。人口減少は加速的なところは竹原であり、小さい町、都市部から離れた道路網のない交通の便の悪い小さい町、ここが人口が減少していくわけですから、その人が積極的に政策を打っていないといけないというふうに思っています。ぜひよろしくお願いします。

それと、これでいくと私はこの質問で具体的なところをどう思われますかというふうに聞いておりますが、なかなか答弁しづらいのか、ありませんでした。唯一、例えば保育料の負担軽減事業、乳幼児医療の支援事業、このようなものを竹原市は行っていきますと、これは大変素晴らしいことなんでいいと思います。私も4年前からずっと言っておりましたけども、やっと三原に近いものになってきました。ただ、我々が考えないといけないのは、こういったものは竹原市だけがやっているのであれば、ぜひ竹原市に住んでください、ほかはやっていませんよというふうに言えるんですけども、よその市町もやっている政策なんです。それこそ、これは国がやっている、ある意味、国の政策の一部なんじゃない

いですか。ほかの、三原もやっていますよ。

それに、3年前ですか、竹原市は東広島に歩調を合わせ、そして、我々が三原のほうが程度はいいよということをお願いしましたら、今度三原に合わせるように努力していただきました。しかし、これによって三原市に住んでいる人が竹原市に住んでくるといことはあり得ると思いますか。それはないでしょう。竹原市から出ていかないような政策にしたいという思いはありますけども、じゃ、交流、社会的な増減を考えたときに、三原市、東広島市、西条町に住んでいる人が竹原市に移転してくる、移住してくる理由にはならないです。それは竹原市のほうが制度としては同等、もしくは劣っているわけですから。

だから、これが、答弁としてはこういうことになるんだと思うんですけども、やっている方は一生懸命やっただいて大変助かってはおりますけども、今住んでいる人はそれで我慢できるかもしれませんけども、新しい人口の増、減少にはつながらない、総合計画でもそうでしたね。減少に歯どめをかけようという政策ではあります。その点が重要視された基本計画でありました。ですから、私はそういう減少に歯どめをかけるのではなくて、人口をふやす政策をしましょうというふうに提案しているわけです。

それについての答えはない。そして、この答弁であれば、現状は維持するけども、じゃ、三原の人が、西条の人が竹原市に引っ越してくるとい政策にはなっていないということをご理解していただきたいんです。こういう政策をつくる方は一生懸命つくっておられて、非常に素晴らしいものです。ただ、ほかの市町にも同じものはあるんです。そういうことをぜひ理解していただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、1点1点やっていきたいと思ひます。

まず最初ですね、私は一つずつお尋ねしているわけですけども、まず、簡単に考えてはいけないのだと思うんですけども、どうしても私の性格上簡単に考えたい性格ですので。4年前にもお聞きしました。市の職員の方が全員竹原市に住んでいただければこのような質問はしなくてよかつたし、市民の方は法律をすべて知っているわけではないので、憲法のことを言われると難しいところはあるんですけども、私の知人連中では、竹原市の職員は竹原市に住んでいると思っている、実際に。しかし、そうではない事情が多々あります。個々に聞いても、何でしたか、親の介護をしないといけないんで嫁方の家に行っているんだという人もおられました。いろんな理由があつて三原に住んだり呉に住んだり、東広島に行ったり、大学の問題もあります。忠海に住んでいたんでは広大に通うのがやっ

で、広島市内の学校には通学できないわけですから、そういう点はわかりますけども、4年前に聞いた竹原市役所職員の市外に住んでいる方が、市長がいろいろ努力していただいたおかげで、前は何十人いた人が今は何人になったんだよという数字が、現在と4年前の比較がありましたら、お願いします。

議長（脇本茂紀君） 総務課長。

総務課長（桶本哲也君） 職員の居住の状況についてでございますが、その時々でそういった居住の状況を集計いたしておりませんので、過去からの推移というものは把握はしておりませんが、現在は約17%の者が市外に居住しているという状況でございます。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） 17%というのは正社員の話ですか、人数をお願いします。

議長（脇本茂紀君） 総務課長。

総務課長（桶本哲也君） 市外の居住者、正職員でございます。人数につきましては、44名でございます。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） たしか4年前に聞いたときもこれぐらいの数字でしたから、要は新しく入られた方は竹原市に住んでいただいているということで理解していきたくと思います。ぜひこれからも、今外に家を建てた、買った人にもう一度帰ってこいというのもあれでしょうから、今から入社される方には、ぜひ竹原市に住んでいただいて、竹原市では、特に竹原市じゃないかと思うんですけども、年に一回の大掃除がありますよね、溝かどぶかわからないんですけども、みんなで掃除するんですよ、草刈りをしたり。そういうボランティアをぜひしていただきながら、竹原市を愛する職員であっていただきたいと。これが基盤になって、機軸になって竹原市をどのようなものにしていくかということを考えるんだと思うんです。私が、例えば三原に住んでいる人間がここに来て竹原市をよくしましょうというふうに思いますか。自分が住んで便利が悪い、ほかと比べて道路が悪いというところが見えるから何とかしようということであって、この中にもたくさんおられるんでしょうけども、その人が悪いと言っているんじゃないですよ、いろんな事情があつてでしょうけども、ぜひそういう方はいたし方ないところもありますので、どんどんボランティアに参加していただいて、竹原市の現状を見ていただきたいんです。そして、この竹原市をどのようにしていくか。

私は今回なんかでも、できれば市議会の改選選挙はなしにして、道路をつくってほしい

というふうに思ったぐらいで、道路が非常に悪い。でも、それをつくる予算がありませんで終わるんですから、選挙をやって3,000万円、途中からやめて1,500万円、それぐらいの額でも1本が40万円か50万円ぐらいで舗装していますから、割り算したらそれぐらいの道路が整備できるんですよ。それができない竹原市だということをぜひ、しょうがないんよと思わないで、住んでいる人はそういうふうな思いでみんな同じように税金を払っておられるんで、あそこが悪い、ここが悪いというのは、あればできるだけ予算がないんですで片づけないようお願いしたいというふうに思っております。

また、2つ目のところで、要は新婚さん向けというふうに今回表現したんですけども、市営住宅ですよ。市営住宅という考え方が、私はどう表現したらいいですかね、低所得と言っていいんですか、の方のための住宅だというふうに昔は理解していたんですけども、ここに来て新しい住宅の制度ができましたと、1階部分を高齢者の方に住んでいただければ、丸子山住宅ですか、あれが代表だと思うんですけども、予算の半分は国が出してくれるんですよと、そういうものがせっかくあるのに、なぜ第2の丸子山住宅が計画、計画されたことがあるらしいんですけども、頓挫しているのか、ぜひこういうものを建てていただきたいという思いがあります。

それはなぜかという、例えば大乘の人かな、あそこは雇用促進ですか、大乘の雇用促進住宅に新婚当時住んでいましたと。そうすると、大乘の団地に家を買いました。忠海の人でいえば、住むところがないので竹原市のどこか、塩町かどこかのほうに住みました、新婚で住みました。そしたら、家を建てたときには、やっぱりその近くなんですよ。わざわざ三原とか西条には行かないんですよ。それはなぜかという、やっぱり学校の問題であったり、1番は子供の問題だというふうに聞いていますけれども、どこの保育所、どこの幼稚園に行くかによって、どこの小学校というのが今決まっていますので、そういう友達の問題、医療の先生の、かかりつけの先生の問題、お医者さんの問題、親同士の交流、そういうものが住むと、きずなが深まるということもあってか、どうも近くに家を建てておられます。こういう事例からしても、この新婚さんのときにねらうと言ったら言葉が違うのかもしれませんが、そういう人をターゲットにして、竹原市に住んでいただければ将来も住んでいただける可能性があるんですよ。ただ、その後、ほかの人を聞くと、どうも大学が便利がいいので西条に建てようかなと言って西条に家を建てた人もいたようですけども、そこまでいくと大学を持っていませんので、しんどいかなという気がしますけども、それからいくと、今度は道路網の整備というふうになってくると思うんです

けども、ぜひ大学のところまでいかないときに家を建てる方に対しては、新婚さん時代に住む家を提供すればその近くに住んでいただけるという感覚があるんです。そのあたりの住宅関連としては、だれかな、都市整備課長なんですかね、そういう感覚的なものは情報としては入っていますか。

議長（脇本茂紀君） 都市整備課長。

都市整備課長（有本圭司君） 議員御指摘の新婚さん用の市営住宅の建設でございますが、本市の人口は、先ほど来減少傾向にあり、少子・高齢化の傾向は国や県の平均を超えておると、進んでおるといふ、地域の活性化の低下などを懸念されているような状況があると。このため本市ならではの快適な生活環境の整備や働く場の確保、子育て環境の充実、情報提供など総合的に進めまして、人口流出の抑制などに取り組む必要があるというふうに考えております。

その対策としては、住宅の奨励金だったり家賃対策の補助金、それから結婚・出産祝い金、就労助成金などの支援策に取り組む中で調査研究も今後必要ではなかろうかというふうに考えております。

そして、市営住宅においては、総合計画の中で先ほど来、丸子山の事例等がございましたけど、現在、老朽化した住宅の用途廃止ということで耐震性のない木造の古い住宅については除却を進めて、管理の効率化に努めるとともに、本市を取り巻く社会情勢とか動向を踏まえながら、若者から高齢者が幅広いニーズに対応した市営住宅への建てかえの検討が今後必要ではなかろうかというふうに考えております。

以上です。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） 検討は必要なんですけども、今から検討されると困るんですよ。これはもう一度計画にも上がったようなことがあってというふうに聞いたことがあります。要は予算の問題だと思います。立ち消えになっております。ぜひ、その予算が竹原市にはないんで建てられないよと言われてれば、それは道路のこともみんな承知しておりますので我慢しますけども。ですから、私は常々言っているのは、例えば忠海の桜町というところがあるじゃないですか。あそこの住宅を半分売って、半分のところにそのものを建てれば、例えば半分で4億円で売れば建設費は出るわけでしょう。4億円ですわね。2億円で売っても国が半分出すんですから、建てられるじゃないですか。そういったことをぜひ考えていただきたいと、それには問題があるんですよと、今住んでいる人がA棟からC棟

に動きなさいと言ったときには、引っ越しもあるし、動きたくないというのは言われるんで、そこは検討とか必要なんですけども、しかし、そういった手法を——手法でしょう。いかにお金を国から持ってくるだけじゃなくって、竹原市の地内にある未利用の土地もあるし、住宅だって半分以上住んでないじゃないですか。皆さん選挙やらないからわからないでしょうけど、選挙やって1軒ずつ回ったらだれも住んでないんですよ。そういった住宅をいつまでも残しておくよりも早く動いていただいて、新しいものを建てて、その建ったところに入っていただいて、半分売れば、だれが考えても予算的な処置はできるというふうに思いませんか。

議長（脇本茂紀君） 都市整備課長。

都市整備課長（有本圭司君） 先ほど議員から御指摘がありました市営住宅の空き家については、先ほど来ちょっと申し上げております老朽化した木造の市営住宅については今移転計画というのを進めておりまして、活用できる空き家のほうへ移転していただいて、そうした中の用途廃止のところにつきましては、今後処分するなり等考えていって、その財源の確保に努めながら、どこの市営住宅にどういうふうに住てかえをしたら効率的で、なおかつニーズが高いかというのを含めて、今後関係者の意見等も聞きながら検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） ぜひそういう方向でお願いします。

また、新婚さんというのは、男は別にどこでもいいんですけども、新婚さんということは、奥さんは多分若いんでしょうから、きれいなところに住みたがるんですよ。ですから、その市営住宅はあいとるんよ、安いんよと言っても、そこには住んでいただけないですよ。だから、そういう点では業界のジレンマもあるんだと思いますよ。どんどん建てかえていかないと、もしくは改装していかないと住んでいただけないんですよ。安いだけがそのニーズではない。だから、丸子山市営住宅なんか、あれ5階でしたっけ、上は高いじゃないですか。それでもだれかが引っ越しすると、もうすぐにくじの順番が来て、みんなが競争して入りたがるという住宅でしょう。だから、そういうニーズのあるものをつくっていただきたい、こういうふうにぜひお願いしておきます。

次は雇用ですけども、朝の質問でも企業誘致の専門員を配置して頑張っているということでもありますけども、じゃあ、その方に私会ったことはありませんけども、じゃ、その方

にはどのような職種の企業を物色してこいというふうだね、そういう指示は出てるんですか。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長。

産業振興課長（中川隆二君） 今の企業誘致専門員の取り組み状況でございますけども、今現在、午前中も申しあげましたように、企業情報を収集する中で、これにつきましては、県と市のほうでどういった業種に絞るかというようなことで、この不景気の中でも一定には今現在企業進出の動きがある。例えば、福祉分野であったり、そういった企業の情報収集しているというような状況で、そういう情報については県とも協議をしながら、いわゆる成長分野の部分で企業立地の動きがある分野に、特にその情報を集めるようにということで取り組みを進めております。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） そうだとは思いますが、そうすると、来てくれるところであればどこでもいいわけですね。というふうに聞き取れましたけども、どこでもというところですけども、ある程度の規模の会社で、業種はこだわってないということでもいいですか。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長。

産業振興課長（中川隆二君） 業種につきましては、竹原工業流通団地ということで、一定には製造業、流通業というこれまでの業種形態がありましたけども、これにつきましては県とも協議する中で、一定には条件を満たす事業者、企業であれば進出をお願いしたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） これも前から言っているんで、余り言いたくはないんですけども、やはり企業というのは、特に大分県の例でいきますと、昔、昔というか、もう1年前になるんですが、キヤノンでしたよね。派遣切りがありまして、大変な派遣村になったという事例もあります。だから、せっかくそこに雇用を創出しても、万が一のときには、それは来てもらわなかったほうがよかったというときもあるんです。大学を出てその大企業かなんか、誘致した企業に入りました。通勤が15分で行くんで喜んでいました。給料も高いです。倒産しましたというたら、次に就職するところはないですよ。

ですから、失敗のないものをぜひお願いしたいということで、私は前から、名前がちょっと違うんでしょうけども、刑務所に近いものをやったらどうかというふうに言っているんです。僕が刑務所が好きなんじゃないですよ。ですから、刑務所という名前じゃないようですけども、以前竹原市が手を挙げて、手を挙げたんでしょう、私はそのとき議員じゃなかったですけども、ぜひそこに軽犯者の施設的なものをやりたいということで、日本で初めてでしたよね。今美祢に行っているんですかね。そういったものを競争して竹原市はだめだったわけですよ。あのときは安倍さんだったんでしょう。自民党の幹事長が安倍という若い人になったばかりに山口に持っていかれたというふうな思いがしましたがけども、こちらは、僕らは池田さんをお願いしていたので、ああっという思いでしたけども、そういうものが、どうも聞くところによると、山口には、あの後でもう1件できたんですね。ということは、第3の可能性、第2の可能性もあったと、であるのに、もう手をおろしてしまった。まだ第3の可能性もあるんじゃないかなというふうに個人的に思っているわけですけども、そういう取り組みは見えてこない。ということは、竹原市においては、もうそういった過去に失敗したものは扱わないという感覚を持っておられるんでしょうか。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長。

産業振興課長（中川隆二君） 今、刑務所を事例に挙げた御質問でございました。我々は決して刑務所誘致をしないということではなくて、実際にはそういう情報がつかめなかったということが正しいのかなと思います。それで、刑務所に限ってということではなくて、企業の立地動向、国の関係機関もそうでありますけども、実際にはすべて水面下でそういう企業立地の動きがある中で、我々としては、今現在できることとして、企業誘致専門官を配置しまして、先ほど少し午前中の答弁で説明不足があったと思いますけども、そういう潜在化している情報をいち早くキャッチするために今現在企業誘致員を配置したということで、そういう情報があれば、先ほど来言いましたように、手前どもの工業流通団地に合致するものであれば、どういった企業が適切なのかということ判断の中で、さまざまな情報を仕入れた中でセールスをかけていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） わかりました。ぜひ、その専門員の方に、やっぱり情報の時代ですから、反対に言わせていただくと、なぜ今までそういった専門員がいなかったのか、大丈

夫です、大丈夫ですと言ってきたわけでしょう。そのあたりの読みが甘かったのか、その情報網の大切さ、もしくは竹原が知らないまま、すべてが決まっていた現実を直視しなかったという反省も必要だと思うんですよ。だから、今となってはそんなことを言うてもしようがないんで、ぜひその専門員の方が1人で足りないだったら2人でも3人でも雇っていただいて、ぜひあそこに、今言ったものも含めて、いいものが来ていただけるような努力が必要だと思います。これは1人の人で大丈夫なのかなという思いがしております。もしあれであれば、その情報が全然キャッチできない状態があったのであれば、もっともっと3人でも10人でもそこに集中投資したほうがいいんじゃないんですか。竹原にとって大変大事なことなんでしょう。そこが今まで放置されていたことが問題ではありますが、過去のことは問いませんので、ぜひこれからこの不景気の中でありまして、今まで読みが甘かったんだと思いますよ。どこか企業が来るんだろうという、どこの工業団地にも、ある意味ほっとしても来ているみたいなふうに見えるんでね、そうだったのかも知れませんが、竹原市が悪いだけじゃなくて、県も甘かったんでしょう。そういうあたりをぜひもっともっと集中投資をしていただきたいというふうに、やはり人材が大切なんじゃないんですかね。そういう優秀な方を雇用して、そういう専門的なことをやっていただくということはやはり市の職員、議員だけでは難しいところがあるんだと思います。ぜひ専門分野の方をお願いしてやっていただきたいというふうに思います。

また、これが商業という面で、あっちこっちでまた忠海でもラーメン屋さんがやめようとか、店を閉めるところが多々あります。これに対していろんな政策、施策を打っていかないと、見ているだけじゃいけないんだろうなというふうに思うんですけども、唯一去年からかぐや姫券ですか、これが賛否ありますけども、国の補助金ということでやりました。これに対して、じゃ、2回やったから3回目はあるのかというところに対しては、予算のこともあると思いますけども、課題としてはどのようにお考えでしょうか。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長。

産業振興課長（中川隆二君） 商業振興に係る御質問かと思えます。

今現在、昨年来実施をしましたプレミアム商品券の継続的な実施については、いろいろと情報として、例えば会議所のほうからもそういった御要望、御意見というのはお聞きしていない状況の中で、今現在予定はありません。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） 1回目のプレミアムつき商品券は好評であって好調であったというふうな情報は得ているんですけども、2回目はどうだったのかなというのと、どうも余り調子がよくなかったという情報もあります。そのあたりをぜひ1回目、2回目をするための1回目の分析だけじゃなくて、今後のこともあるんで、2回目がよかったのか悪かったのかをも含めて、ぜひ分析していただいて、それを提示していただかないと、僕たちはそういうデータがありませんので、今後予算面に対してもそういうものを要求していいのかどうかというものもありますので、ぜひ資料含めて、そういうものができたら、多忙な折ではありますけども、ぜひお願いしたいというふうに思います。

道路のことでも、本当は広島空港ができたときに広島空港から一番近いまちということでしたんですけども、実は道路がなかったということで、だれも来ませんでした。ましてや、竹原の存在価値の高かった中四国フェリーもなくなってしまいましたのでどうかなと思うんですが、今からもぜひ計画道がありますので、早急な竹原駅から広島空港、最低でもそこまでの道を整備していただいて、その向こうはフルーツロードが、農道ではありませんけれども、国道、県道よりもすばらしいような農道ができておりますので、あれをつくるんだったらこっちが先だろうなというような思いがあるんですけども、何とか努力していただいて、みんなで協力しながら早期の完成を目指したいというふうに思っておりますので、よろしく申し上げます。

次は、道の駅のところ、道の駅だけはらといいますか、これは協議会、運営に対してはたしか協議会というのをつくったと思うんですけども、今あんまり評判がよくないんですよ。なぜかというのと、僕が、よかったよというのはなかなか人間言わないんでしょうから、正確な数字ではないんですけども、悪かったよという声をよく聞きます。そして、遠くから来た人が、大変寂しかったんですけども、あんなところ二度と行かないと言って帰ったんです。それが2人おられました。それはなぜというて聞くと、それは最初の水曜日だったんです。オープンして4日目ですか、あれは。水曜日が休みだったそうです。私は行っておりませんが、それどころじゃなかったというのがあったんですけども、僕も水曜日が休みだというのは説明会のときには聞いていたんですけども、後で考えて、まさか最初に休まないよなというふうに言ってしまったんですよね。これ運営は協議会にお願いしているわけじゃない、協議会と連絡をしながら運営をしていると思うんですが、この定休日が水曜日になった経緯と、最初の、せめて1カ月ぐらい私が店主であれば休みなしでやるんじゃないかなというふうに想像するわけですが、直営の場合はそうではないんで

しょうか。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） 4日目の定休に批判が多いということで、せめて1カ月ぐらいは無休にしてはどうかというような御指摘ではなかったかと思います。

物販事業の定休日や営業時間につきましては、施設全体の工事完成から一般オープンまでの準備期間が短かったことから、物販事業の要員計画や物産品等の集荷準備の状況など、安定したサービス提供を維持していく上で、不測の事態にも対応できる時間的余裕を配慮し、協議会における民間意見や他の道の駅の定休日の状況も踏まえ、総合的に検討して週1回の定休日を決定したものでございます。よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） そういう点では理解できるんですけども、実は選挙期間中であつたんですけども、トイレをお借りしたくって寄ったところ、たまたま統括の方がおられて、何で水曜日休んだんですかということ聞いたんですよ。ここにおられないんでどうしようかなと思ったんですけども、個人的な感覚ですよ、1つは、最初の、ほかのところも水曜日休みのところ、割とありますよね。調べてみたら、えーっと思いつながらも、水曜日が休みのところもありました。ですから、それは理解できないことはありません。ただ、最初の日、もしくは1カ月休まないで頑張つてほしかったなという思いがするんです。ただ、それは協議会のメンバーの方に運営をお任せしているんで、プロが会社経営しているような人たちがでしょう、メンバーというのは。そういう人たちが、いや、それは休んだほうがいいよと言われたんだつたら、それはそれでそういう方式もあるのかなと思いますよ、僕は経営したことがないんでわかりませんがね。だから、そういう専門家の方々とよく話をしながら、ぜひやっていただきたいんですよ。

個人的な意見を聞いたときに、統括のある人は、「大川さん、僕らも人間ですから」と言われたんですよ。それはそうです。水曜日を定休日にしないと人件費が1.4倍かかるんですよ。ただ、僕たちはそこで人件費を浮かしてほしいから水曜日は休みにしてくださいと言う人はいないんですよ。あそこを何とか売りにして竹原に人が来てほしいわけですから、その1.4倍、もとのお金が三千何百万円ですから、大きい額なのかもしれませんが、その中の1日でしょう。その1.4倍かかるんで大変なことになると言われるとそれは見当違いもいいところで、我々はそこに、例えば万が一、例えばですよ、100万円かかるんですけど、どうしようと言われたら、最初の日は、水曜日はやっ

てもらいますよ。だって、この近隣に周知徹底できてないんですから、オープンしたのはわかっていますよ。しかし、水曜日は休みですというところは、そんなところまで見て来る人はなかなかいないんですよ。だから、来て、怒って帰りました。もう二度と来ません。これは金額にしてはどんだけのものになるんですか。こういう人に、いや、実はこうだったんで、もう一回来てほしいんですよという、だれかもわからない、そういう情報発信のしようもない。竹原市に対して負の遺産だけを持って帰ってもらったというようなサービスをしてもらったのでは困る。そのあたりをぜひ協議会のメンバーの人が責任を持った発言をしていただきたいんです。

あえてメンバーがだれかはきょうは聞きませんが、それは協議会ですから、どこまで責任があるかわからんですよ。しかし、責任を持った意見言ってもらわないと、これは竹原市の全体のことですよ。それはできたら議員みんなを入れた協議会をつくってほしかったですよ。何事なんですか。こういったよそ様が来られて、あんなところかんわと言われると、それはつくった価値がありません。ぜひ、せっかくつくったんですから。どうも、市長がどの程度つくりたかったのか存じませんが、何か今感じるのは、災害拠点型の道の駅をやると国から10億円出そうだからやろうかというて、ただ飛びついたように見えないように、これをいかに利用して竹原市が活性化していくかというところが大事なんですから、そこの1日休んだ、人件費が1.4倍になるんですからなんて言われたら、その人は失格ですよ。ぜひそのあたりを考えていただきたい。

我々はあそこを視察と言わないですが、見学に寄らせていただきました。オープン前の見学で、やはりだれが見てもトイレのところに目が行きます。道の駅といえば、国土交通省のトイレ休憩、これが道の駅という名前の由来でしょう。じゃあ、そのトイレはと行ってみたら、元政治家をやっておられたような方でも、これはウォシュレットというんですか、違うのかな、TOTOさんの宣伝したらいかんから、あれか、何か、要は便座が温かいのではないし、シャワーがついてないんでしょう。それは今は道の駅というものはそれが通常なんですか。それをぜひつけてほしいというふうにあそこで何人かの議員が要望したんですけども、いやあという話で、まあまあで濁したんですけども、今からそういったものを、あそこに座った人は、ああ冷たいと思ったそうですよ。そういったものの設備を整備していく可能性はあるんでしょうか。

議長（脇本茂紀君） 副市長。

副市長（三好晶伸君） 道の駅だけはらもオープンをして2カ月経過いたしました。

議員御指摘のとおり、我々も道の駅オープン以降、アンケート等もとりながら内容について検証しながら、改善すべきところは改善するという真摯な気持ちに立って今取り組んでいるところであります。

毎週水曜日の定休日に対しましても、先ほど来申し上げましたように、会議所と竹原市のほうで共同で今運営管理を、協議会をつくりまして、その中で一定には毎週水曜日を休みにしようということにしておりましたが、そういった利用者、あるいは市民の方からのいろんな御意見、御要望もございまして、毎週水曜日の定休日については当面、12月いっぱい臨時営業しようということにいたしております。

また、その他のいろんな課題も、議員言われるまだまだ数多くございます。そこらあたりも本当にできる、改善すべきところは改善することとして、例えば先ほどのトイレ、これについては国土交通省のほうの管理区分でございますが、そういった御意見も踏まえて、今後協議をしてまいりたい、改善できるものは改善していきたいということで、よろしくお願ひしたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） 時間が迫ってまいりましたので、ぜひトイレは道の駅にとっては本当に大事なところですよ。あそこが、えーっと思われたら、もう終わりですので、わざわざレストランに来る方もおられるんですけども、道の駅の主目的はトイレ休憩ですので、ぜひお忘れのないようにお願いします。

あといっぱいあるんですけども、どうもあと5分ではできそうもないので、最後に道の駅に対してイベントをやるというふうに聞いていたんですけども、いまだ見たことがないというふうに思っております。私はそこに住んでいるわけじゃないんで、もしかしたらやっているのかもしれないんですけども、聞いたことはありません。ぜひ早急に、答弁書の中には企画はされてそんなことが書いてありましたので、ぜひみんなが集って竹原市に来ていただけるようなイベントをやっていただきたいというふうに思います。

それと最後に、せっかく直営の店を竹原市は初めて持ったわけですが、以前竹原の水、ペットボトルの水をつくりましたね。それはなかなか民間のところでは売っていただけないという感覚があったんですけども、この直営の店において竹原の水なるペットボトルの販売はできないんですか。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） 御指摘の水でございますけども、可能であるというふうに

考えております。

議長（脇本茂紀君） 4番。

4番（大川弘雄君） ぜひ、おいしい安全な水ということで、竹原をこれもPRするものですから、道の駅、せっかく直営店を持ったわけですから、ぜひこれを活用して、いろいろな面で竹原市を売っていきたいというふうに考えております。皆さんも御協力よろしくお願いたします。我々も一生懸命努力するものばかりでありますので、これで終わります。

議長（脇本茂紀君） 以上をもって大川弘雄君の一般質問を終結いたします。

2時45分まで休憩いたします。

午後2時26分 休憩

午後2時45分 再開

議長（脇本茂紀君） 休憩を閉じて会議を再開します。

引き続き一般質問を行います。

質問順位3番、小坂智徳君の登壇を許します。

14番（小坂智徳君） 議長より御登壇のお許しをいただきました、夢クラブの14番議員の小坂でございます。

夢クラブといいましても一人会派でございまして、大変寂しい思いをしております。しかし、前期の13期の議員の方々は4名誕生され、そして今回14期の新しい議員の方々が3名誕生されまして14名の議員構成の中で7名の方が1年生、2年生の方でございます。そういったとき私自身も今日まで5期20年間この議場で議員活動をさせていただく中で、いま一度初心に戻って議員活動をしなくてはいけない、このような思いから今回一般質問をさせていただくわけでございます。いろいろな意味で愚問、あるいは、つまらない質問もあろうと思いますが、理事者側におかれましては簡潔明瞭なわかりやすい誠意のある御答弁をいただきたいと思っております。

では、通告書に従いまして質問展開をしたいと思います。

今回は、アニメ「たまゆら」を起爆剤とした竹原市の観光戦略についてを質問させていただきます。

今月の初めに、佐藤順一監督を初め多くの関係者の方々が来竹をされ、また「たまゆら」の第3話、第4話の上映会が竹原市及び東広島市において開催をされました。私も選挙公約の一つであります「アニメのまち構想の実現」という項目もあり、また新しい観光

戦略の視点からも、この12月定例会においてどうしても今定例会で質問・提起をしなくては、このまましりすぼみになるのではないかと、このように思い、質問をさせていただくわけであります。

このアニメ「たまゆら」は、安芸の小京都竹原を舞台に、主人公の女子高校生たちが友人たちと一緒に成長しながら夢を追うストーリーであり、監督は「美少女戦士セーラームーン」を手がけた佐藤順一監督であります。特に、古い町並みや瀬戸内海の風景がアニメのイメージに合致し、竹原市民のほのぼのとした人情味豊かな温かみも好感を得たとお聞きをしております。

また、市内に実在をする写真館、お好み焼き店、喫茶店、あるいは市内の風景等がアニメの中に随所に描かれており、発売PRのために開催をされた東京での先行上映会において、マスコミやインターネットを通じて声優ファン、アニメファンが多く参加をされたと聞いております。

竹原市においても10月10日にイベントが開催をされまして、一日竹原市長、午後からは照蓮寺において声優によるトークショーも開催をされました。多くの方は前日から市内に宿泊をされまして、当日は1,500人以上の若者が来竹をされておられました。

私も62年間竹原市で生活をしておりますが、市内でこれだけの若者の姿を見た光景は初めてであり、大変な驚きと、ある一種の感動を覚えたわけでございます。先日の駅前商店街の「えびす祭り」において、声優トークショーのイベントでも300名余りの来会があったところであります。

こうした竹原市内に与える経済波及効果は、私の知っている限り、あるお好み焼き屋さん、声優さんと考案をした「たまゆら焼き」というネーミングのお好み焼きは1日で約300枚近く売れ、一方では、市内の酒造メーカーにおいては、アニメのラベルを張った日本酒が2時間余りで140本余り売れたそうであります。

また、あるホテルによりますと、当日の宿泊の40%がアニメファンとも聞いております。この10月10日だけでも大きな市内での経済波及効果があったと私は確信をしたところであります。

最近の国内の観光地では、境港市の水木しげるロード、あるいは埼玉県鷲宮町における漫画やアニメなどサブカルチャーを活用した新たな観光戦略を展開し、成功事例も多くあるところであります。

こうした観点から、竹原市においてもこの「たまゆら」を活用した「聖地巡礼」と称し

た新たなパワースポットも設け、市長が商工会議所副会頭時代から掲げておられる100万人の入込み客を目指すためにも、10月23日にオープンをした道の駅とのダブル効果も一考し、低迷をしている市内商業の活性化対策等も含めどのような観光戦略をお考えなのか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上で壇上での質問を終わりますが、答弁の内容次第によりましたら、自席においての再質問をさせていただきたいと思います。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 順次答弁を願います。

市長。

市長（小坂政司君） 小坂議員の質問にお答えをいたします。

アニメ「たまゆら」のDVD発売までの経緯と竹原市の対応につきましては、ことしの4月に制作会社からアニメ「たまゆら」を制作していくことで、市に対して宣伝普及などの協力の要望があり、市としましてもできる限り協力していくことで返答いたしました。

このアニメ「たまゆら」は、主人公の女子高校生が竹原市に引っ越してきたという設定で始まり、彼女とその友達が繰り広げる温かな日常を描いたアニメーションで、瀬戸内海の美しい風景や古い町並みなど実際の竹原の風景がたくさん登場することから、観光客誘致や市のイメージアップにもつながるものであり、そのため、市庁舎や町並み保存地区内へのポスター掲示、マスコミ等へのプレスリリース、観光情報誌「広島さんぽ」や広報たけはら10月号への掲載、市庁舎の入り口へ立て看板を設置するなどのPRに取り組んでまいりました。

また、10月10日に開催された「たまゆらの日～ようこそ、あたたかな町へ～」と題したイベントにおきまして一日市長の任命、第1話、第2話の上映会や、照蓮寺における声優とのトークショーの運営などを制作会社や非営利活動団体とも連携をして実施いたしました。

さらに、市役所内部でもアニメ「たまゆら」DVDの発売を周知するとともに、在京の竹原出身者等で構成される東京竹原会へも周知を図るなど、各方面への情報発信も行っておりまいりました。

また、「道の駅たけはら」と連携した取り組みとして、10月23日の中国新聞への全面広告の中に「道の駅たけはら」や町並み保存地区などの観光情報とあわせてアニメ「たまゆら」についても掲載をし、PRを図ったところであります。

このような取り組みの中で、先ほど申し上げましたイベントに1,500人以上の若者が訪れたことや、先月開催された駅前商店街の「えびす祭り」にもたくさんの方々が訪れた状況は、アニメ「たまゆら」の効果の恩恵であると感じております。

今後のアニメ「たまゆら」の動向であります。11月26日に第1巻のDVDが発売され、今月には第2巻のDVDが発売される予定となっており、この第1巻、第2巻のDVDの売り上げ状況によっては、テレビシリーズ化等、次のステップへ進展することを大いに期待する中で、本市の観光戦略の一つとしまして、「道の駅たけはら」において新たに「たまゆらコーナー」を設けるなど、まずは提供商品の販売促進にもつながるような情報発信、情報提供に努めてまいります。

また、商業の活性化対策にもつながった民間の取り組みとして、非営利団体によるコーヒーやポストカードのオリジナル商品の開発・発売や、航路事業者によるフェリーラッピングや「たまゆら乗船券」の発売など好評を博した事例もあります。

アニメ活用の先進事例として、埼玉県鷲宮町では、商工会などの民間が中心となって作成した飲食店を巡回するスタンプラリーや各ロケ地を紹介したマップのほか、アニメキャラクターが入った特別住民票を作成・配布した取り組みがあり、本市といたしましても、これらの事例を参考にしながらアニメ「たまゆら」を活用した情報発信、情報提供を継続的に行うとともに、観光協会など各関係団体との緊密な連携や情報の共有化を図る中で、具体化に向けた取り組みへの支援に努めてまいりたいと考えております。

以上、答弁といたします。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） まずもって親切な答弁書でございまして、私の場合は2ページでございまして、答弁のほうも5分、そして片山議員におかれましては12ページで約25分、そして大川議員におかれましては項目が多いといひましても約30分の答弁で、本当にこの答弁書をつくっていただきました担当者の方には心から感謝を申し上げ、敬意を表したいと思います。恐らく時間のほうも相当かかったのではないかと思います。しかし、答弁書のほうを見ますと、私の質問書の中の3分の1は引用をされていらっしゃるし、そう時間がかからなかったのではなからうか、このようにも思っておるわけでございます。そういったことで、時間の許す限りいろいろ質問展開をさせていただきたいと思ひます。

まず、先ほど答弁の中にもありましたように、市長の中で、市の庁内等々にこの「たまゆら」のいろんなイベント、あるいはいろんなことで周知徹底をしたい、こういった御答

弁がございました。

そういったことで、議長に大変申しわけないんですが、お許しをいただければ現在29名の職員の方が市長を除いていらっしゃるわけですが、まず購入をされた方、こちらから挙手をいただきたいと思います。「たまゆら」の第1話、第2話、1巻6,090円、市長を除いてですよ。こちらのほうから、ゼロ、右側、ちょっとしっかり、丸せんといかんもんで、1人、2人、3人、4人、5人、6人。こちらのほうで購入をされた方、1名。じゃ、他人にお借りになって、この1話、2話を見られたという方はこちらから手を、市長は結構です。買った人はもちろん見とってですわね。じゃ、こちらの人で見られた方、2名。じゃ、ついでにしつこいようなんですが、議長済みませんね。もう1点、12月23日に第2弾が出るんですが、予約をされた方、こちらのほうから1名、2名、3名、4名。じゃ、右側の人、1名。ありがとうございました。

市長、今の29人の中で、市長は本当にいろんな意味で千載一遇のチャンスであり、何とかこの「たまゆら」で竹原のまちおこし、あるいは観光面に生かしていこうというような思いを持っておられて、いろいろと号令をかけられたと思うんです。しかし、今現実的には、買った人は6名とか、わずか8名ぐらい。見た人も少ない。これは、私は最初から大変きついことを言うようなんですが、市の、先ほどからいろいろ午前中も質問等が出ておりましたが、意識というものが職員の方々、あるいは幹部の方々におかれてないのではなかろうか、こういった思いを強く個人的には持つておるわけですが、そういったことで、職員の特に幹部の皆さん方におかれましては皆さん方の税金でいろいろと給料もいただいておる、そして奉仕者である、こういった認識をまだまだ持つていただきたい、こういったことがいろんな意味で今後の事業展開、あるいは施策において協力心といったものも生じてくるのではなかろうか、このような思いを持つておるわけですが。

先般、12月10日に恒例のように、かぐや姫の商品券販売、最終的には市庁内で売れたのは70万円余りだったとお聞きをしておるわけですが、これも依然と伸びる要素はない。私も50分余り会議所の会員として下のほうと一緒に販売のお願いにまいったわけですが、いろんな挙動不審な方もいらっしゃるわけですが、隠れて裏から逃げてみたりとかいうような方もいらっしゃる。こういったことも、いわゆる先ほど言いましたようないろんな意味合いがあるんじゃないかと思うわけですが。そういったことでぜひ、冒頭からきついことを申し上げるようでございますが、いま一度周知徹底をいただきたいと思っております。

次に、竹原市の観光戦略、こういったことで先ほどからいろいろと御答弁をいただいたわけでございます。皆さん方も御承知のように、市長におかれましては会議所の副会頭時代、いわゆる私もチームの一員として携わったわけでございますが、当時、中川課長のほうも担当で市のほうから来られていらっしゃいました。100万人の入り込み客、こういったことを目指していこう、こういった思いを強く持っておられたわけでございます。

ある課長によりますと、最近、16万人、あるいは36万人というようなことを言われる課長もいらっしゃるわけで、36万人いますと1日に1,000人来にゃいかに、1,000人来るわけなからういうてお話をした記憶もあるわけでございますが、そういった観点から、市長におかれましては10月23日にいろんな御尽力、御配慮をいただきまして、竹原市の持ち出し分も少なく道の駅を観光拠点にしようというようなことで道の駅もオープンし、お聞きいたしますと、今のところ10月は100万円余り、11月は72万円余り、順調には推移しているようでございまして、何とか今からも順調にいていただきたい、こういった思いがするわけでございます。

しかし、町並み等々のいろんな経緯を見えますと、伝建地区に指定をされまして、そして何といたしましても町並みがヒットいたしましたのは、「時をかける少女」、大林監督、そして原田知世、こういったところで町並みがいろいろと安芸の小京都竹原、こういった観点からいろいろと当時ブームになって今日まで来ている。そして、最近の動向といったものは、御承知のように呉の「ヤマト」ブーム、こういったことで尾道の造船所を回って竹原市のほうにそのついでに寄ってこられて、そして呉に行くというようなことで、この二、三年は何とか順調に推移をしていた。しかし、最近の動向といったものは、道の駅ができるまではいろいろと観光客目当てのいろんな御商売をされる方というのは企業努力、営業努力もあろうと思いますが、いろいろと衰退をしていた、そういったときの道の駅のオープンでございます。

そして、今回、本当に言葉は悪いわけでございますが、降ってわいたような本当に千載一遇のチャンスのこの「たまゆら」でございます。そういったことで十分承知をしていない職員の方々、あるいは議員の方々がいらっしゃるといけませんので、私が知っております限りの今日までの経緯をお話いたしますと、松竹等々からいろいろお話があったのが2月初めごろ、こういったことを聞いておるわけでございます。そして、これは恐らく市のほうに御提案があったのではなからうか。いろいろ松竹のほうから多くの御提案があった。しかし、いつまで待っても松竹さんのほうは回答がない。そういったことで、民間の

団体NPOさんがいろいろとお世話を6月ごろされて、そして、それからお話が始まった。その中では、松竹さんのほうも当初は、「竹原市さん、いろんな意味で回答がないからあきらめていた」、このようなお話を聞いておるわけでございます。

しかし、当時は市の職員の皆さん方におかれましても道の駅オープンに際していろいろと多忙であった、あるいはこのアニメという効果が一向にわからなかった、こういった面もあると思います。

そのようなことで、特にこの「たまゆら」の人気というのは、私自身も十分当初承知をしておりませんでした。しかし、このアニメの層というのは私自身本当にびっくりしたわけですが、いわゆる声優ファン、こういった方がたくさんいらっしゃるというのも10月10日に目の当たりにいたしました。そして、いろんなこういった情報の通信といったものはインターネットの世界からいろいろと通信網が流れている、このような思いもしたわけでございます。

また、あるお店に行きますと、いろんな声優の皆さん方のツイッターとかブログというんですか、そういったものがいろいろと次から次へ入ってくる、それをファンの方々は一瞬時に携帯電話か何かから入れて、今ここで何々を飲んでいる、ここで何々を食べている、リアルに入れるというようなことも新しい発見をさせていただいたわけでございます。

そして反面、私自身は秋葉系とかアニメ系というのは何か弱々しい、大変言葉は乱暴なんです、変な子が多いのではなかろうか、このような思いを持っておったわけですが、しかし、照蓮寺におきましては、中へ入るなり300名、400名の方が本当に階段のほうに静かに行儀よく並んで、いろいろと思ひもしなかった新しいその新発見というものをしたというのも事実でございます。

そして、これは市長も私と同じ団塊の世代、そして私どもの子供というのは30代半ば少々の子が多いわけですが、どうも私のとらえ方は最近のこういった若者というのは大変弱々しい子が大変多くなっているのではなかろうか。いわゆるですから、秋葉原のほうで萌え系とか、あるいはメイド喫茶とか、そういったところへもいろいろと行く、そしていやしの系統、こういったものもいるのではなかろうか。そして草食系、このような方も多くなったのではなかろうか、このような思いもするわけでございます。

そしてもう1つは、この声優の皆さん方が、「皆さん、お行儀が悪い方はもう退場していただきます」というような強い口調で言われますと、「はい、わかりました」というような口調でございまして、ある一種のSMの世界を見たような気もしたわけございま

すが、そのようなとらえ方もしたわけでございます。しかし、冒頭に言いましたように大変礼儀正しい、こういった感覚を持ったわけでございます。

そういった観点から、先ほど言いましたような今日までの経緯に対して市の反論もあろうと思います。私が仄聞していることをお話をさせていただいたわけでございます。そういったことで、松竹とのやりとり、あるいは相違点がございましたらおっしゃっていただきたい。そして、もう一方では、どのように今回の件で、先ほど私が感じました感想等もあわせて市長なり、あるいは総務部長なり、あるいは担当の課長なり、お聞かせをいただきたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） 取り組みについてでございますけれども、制作会社でありますとか、地元の関係者との連絡調整の中におきまして意思疎通でありますとか連携の取り組みがとれてなかったというところも一部あろうかと思えます。そこで、市長答弁にもありましたように、アニメ「たまゆら」を活用した情報発信、情報提供を継続的に行っていくとともに、観光協会など各関係団体との緊密な連携や情報の共有化を図る中で、具体化に向けた取り組みへの支援に努めてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

（14番小坂智徳君「もしよろしかったら、市長でも、先ほど言いました若者といろいろ接点があったと思うんですが、率直な御意見といたしますか、とらえ方を一応、もしよろしかったら。難しかったらどなたでも結構です」と呼ぶ）

議長（脇本茂紀君） 総務部長。

総務部長（今榮敏彦君） このアニメ「たまゆら」のPRといたしますか、その取り組みにかかわりまして、先ほど14番議員のほうからる説明がありましたとおり、竹原市としても一日市長でございますとか対応をさせていただいてきたところでございます。おっしゃるように、私のイメージも実は14番議員に近いところもございましたけれども、非常におとなしいといたしますか、優しい方が多かったのかなど。町並みを歩く姿も特に何かにぎやかだという騒がしいという状況もなかったやに聞いておりますし、そういう意味では、アニメ「たまゆら」による竹原市の来訪者については、実はその日に限らず、ここ最近も少人数であります、随時いらっしゃっているというふうに私自身もこの目で確認を

しております。そういう意味では、今後もそういう来訪者への期待というものはございますし、市長のほうからもこのアニメ「たまゆら」を活用した取り組みというのは、一定には庁内でも指示ないし検討は引き続き続いているところでございます。時間は過ぎてまいりますので、おくれることなくこの取り組みについては進めなきゃいけないというふうな認識をしておりますので、いわゆるこれはアニメ「たまゆら」を起爆剤とした観光戦略というものも相まって基本的には竹原市の売り込みということにつながるというふうに認識をしておりますので、取り組ませていただければと思っております。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） 言い忘れておったんですが、後で結構なんですが、イベントが終わって11月の初めにチームたまゆら、こういった会合を市の方も1名か2名参加をされて反省会といいますか、今後の展開等々のお話があったんではないかと思えます。この件につきまして後ほどで結構でございます。どういった内容であったかいうのも教えていただきたいと思えます。

まず、その前に、今回の効果につきましていろんな効果があったと思えますが、まず市当局はいろんな意味で幾らの経済効果があったんだろうかというような試算をされていらっしゃるのか。私が知っている限りはマスコミ報道等々でたくさんいろんな意味で取り上げていただいた、あるいは山陰のほうの中央新報というようなそういった経済誌におきましても、山陰地区のほうにおいて大々的にいろいろと大きな反響があった、こういったことも聴取をしておるわけでございます。そういったことで経済波及効果、こういったものは市内にはどのくらいあったのか、こういったことも後ほどで結構でございます。試算等々がわかれば教えていただきたいと思えます。

今回、市長、こう見てみますと、いわゆる周知徹底というのは大変時間もなく、あるいは冒頭に言いましたようにアニメの効果といったものがわからない方が市民の方、あるいは商売の方、こういった方が多かつたんではないかと思えます。そういったことで、私は、勝ち組というのは協力をいただいたNPOさん、あるいは山陽商船さん等々には早くから企画立案をされまして、フェリーのラッピングとか、いろんなグループ会社でございますところの提携、あるいは清風館等々でいろいろと御利益を上げられた、あるいは先ほど冒頭に質問の中で言いましたようにお好み焼き店、あるいは喫茶店とか日の丸写真館、あるいはイチカワ、イマイチさん、駅前商店街、こういったところにもいろいろと効果があった、このようにとらえておるわけでございます。そのおこぼれと言ったら大変言葉は

悪いわけですが、近所のラーメン屋さん、あるいは二重焼きさん、こういった方々にもいろいろと波及効果があった、このように思っておるわけですが、こういったことで経済波及効果はどのようなとらえ方をされているのか、これも先ほど言いましたように御答弁をいただきたい。

そしてもう1点は、いわゆる私どもはまだアニメとかいうのは何とかわかるわけですが、今から市民の方々、あるいは大変失礼な表現になるわけですが、私ども議員を含めて、職員の方々を含めて、アニメとはどのような解釈、あるいは「たまゆら」とはどのような解釈、この御説明をいただきたいと思います。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） まず、チームたまゆらの状況はどうであるかということなんですけれども、まず実際にフェリー会社さんであるとか、NPOさんであるとか、市、あるいは駅前の商店街の方等がお集まりいただきまして一定に現状での取り組み、あるいは今後に向けた取り組みを考えていく中で、連携をとっていこうという形の中で緊密な連携、あるいは情報の共有化を図っていきましようというような形の会議でございました。

また、当日の波及効果でございますけれども、金額的なものははじいてはおりませんが、一定には試写会に当日3回の上映でありまして、約500名の方が試写に来られました。また、議員おっしゃられましたように、当日の照蓮寺のイベントにおいて400名以上の方が来られたというような状況、実際には関東のほうから、九州のほうからも来られたという状況もありますので、そういうところの状況でありますとか、宿泊についても一定の効果があったものというふうに認識をしているところでございます。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 総務部長。

総務部長（今榮敏彦君） アニメーション及びアニメ「たまゆら」の解釈という御質問ですが、アニメーションの考え方といいますか、そもそも一つ映画の話も14番議員おっしゃったとおり、これは映画に匹敵する効果ないしPR度というものがあるやに認識をしているところです。もちろん広島市においてもアニメーションフェスティバルとかというのは毎年実施をされておられまして、そういうふうなところへつながる可能性というものは秘めているのではないかと。近隣では三原市さんとかそういうところもアニメーションを活用して今取り組もうとされておられますが、基本的にアニメ「たまゆら」は、本当に竹

原市を題材として、ずばり竹原の店名、地名、駅、これをつぶさにそのまま描写しているということもございまして、非常に竹原市にとってはありがたい作品であるというふうな認識をしているところでございます。今後においてもこれをPRすることによって竹原の知名度アップにつなげていきたいというところでございます。

(14番小坂智徳君「いや、「たまゆら」そのものが、「たまゆら」いうのが、例えば、写真についておる水玉が「たまゆら」なんですよとか、いや、違う解釈なんですよいう、その「たまゆら」というのがわからん人がおります。何じゃろういう、そういう意味のことを」と呼ぶ)

私はアニメーションを見ておるんですけども、1回ごらんになっていただきたいのは、この「たまゆら」と申しますのが、この主人公の女の子が写真が趣味で、それを撮った写真の中に、彼女が撮った写真に時々そういうほのぼのとした白い玉というんですかね、綿のような玉と言ったほうがいいんかもわからんですが、そういうものが写るわけです。それを「たまゆら」というように表現をしまして、描写は、主人公の竹原が大好きと申しますか、その写真が大好きと申しますか、ほのぼのとしたその雰囲気ないしイメージを出すための描写ではありますけれども、それを作品名に使われたというのがアニメ「たまゆら」というところでございまして、一度皆さんごらんになっていただければと思っております。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） ありがとうございます。

話が大変前後するようなんですが、市のほうで今回市長が東京へ行かれたとき松竹のほうへ寄られたとか、あるいは一日市長をしたとか、あるいは広報誌等々でいろいろとPRをしたとか、看板の作成を巨大な看板を2枚余りつくられたとか、関係者との会食等々でこのぐらい要ったとか、そういったことで市の持ち出しといったものは概算で結構でございます。大体どのぐらいかかっているのか。

そして、答弁漏れ等ではないんですが、今、室長のほうが答弁をいただいたのは、私が言いたかったのは試算を例えば、いろいろ聞き取り調査を検証して、あそこのお店は「たまゆら」の効果でこのぐらいの金額が上がった、総合的にはいろんな意味で経済波及効果というのは約3,000万円余りであった、そういう試算をされたのか、あるいは金額的

にはどのような金額を想定すればいいのかということが聞きたかったわけでございまして、わかればそれもあわせてお願いをしたいと思えます。

それと、チームたまゆらの件ですが、後ほどまた窓口の一本化、こういった質問の中でするわけですが、今後、これからはチームたまゆらの存在感、あるいは組織の母体といったものは考えていらっしゃるのか、次回はいつごろの予定でやるのか、これもあわせて御答弁をいただきたいと思えます。

議長（脇本茂紀君） 企画政策課長。

企画政策課長（豊田義政君） 「たまゆら」のPRにかかった経費の一部の部分、市長関係の経費の部分について御答弁させていただきます。

まず、14番議員からありました東京の松竹の件でございますけれども、こちらのほうは別件東京出張とあわせて行っておりますので、厳密に言うと、東京での交通費はかかっておるんですけれども、ほとんど東京への交通費というのはかかってございません。

それから、声優の方との会食ですけれども、会食のほうは一応それぞれの費用でということ、公費のほうはかかってございません。

私のほうからは以上、経費の関係の一部分でございますけれども、答弁させていただきます。

（14番小坂智徳君「看板とか広報、追及するんじゃないんじゃけんね、誤解せんように」と呼ぶ）

看板の件でございますけれども、2枚の看板で一応25万円ほど経費がかかってございます。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） 窓口の一本化ということでございますけれども、庁内でも十分連携がとれてなかったと、企画サイドのほうとも、御指摘があろうかと思えます。今後におきましては、庁内の窓口一本化ということで連携をとりまして進めてまいりたいというふうに考えております。

それから、これからのチームたまゆらの状況ということでございますけれども、来月にはまた再度会議を持って、今後についての協議を進めてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） 私が知っている限り第1弾、第2弾、こういったところで松竹さんのほうも商売でございますから、例えば、例のDVDですか、これは3,000本最低でも売れなくてはいけない、あるいは1万本売れなくてはいけない、こういった素人考えをしておるわけですが、こういったとき市当局は大体最低、例えば、12月の3日先に販売があります第2弾を含めてこのぐらいはぜひ竹原市さん頑張っていたきたい、あるいは市長が思っている第12話、第13話までいってテレビ化等々へ向けるのは、例えば、3万本ぐらいまでは売れなくてはいけない、そういったところも差し支えがなかったら教えていただきたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） DVDの売れ行き状況についての御質問でなかろうかと思えます。ただ、現在のところ制作会社からについて具体的な数値等は公表をされていない状況でありまして、把握できていないという状況でございます。よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） どうしても室長、冒頭に話をしましたように、おたくらも道の駅へ本当に中川課長初め室長等々も含めてこの2カ月余りは頑張っている、こういった思いはするわけです。今の答弁を聞きますと、松竹さんのほうもある一定を売らなくてはどうしても竹原を舞台にした設定というのはもう第4話ぐらいで終わってしまうという懸念さもあるわけでございます。そこらがどうも誠意というか、調査というか、いろんな熱心さというか、こういったことが温度差が相当私はあるんではないか、こういった思いがするわけでございます。

そういったことで購入方法も、インターネットの販売ルートがあるわけですか、あるいは、地場産業育成の観点からNPOさんも販売をされている、それが高いのか安いのかわかりませんよ。そういった観点から私がお聞きしたいのは、どこで売れた本数が松竹さんのほうの判断の数字になるのか、それと竹原ではどこどこが売っているのか、それもあわせて御答弁をいただきたいと思えます。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） 今の販売状況ということでございますけれども、実際にNPOさんでありますとか、今のCDショップみたいなところで販売されているというふう聞いております。

議長（脇本茂紀君） 企画政策課長。

企画政策課長（豊田義政君） 済みません。補足で答弁させていただきます。

売り上げ全体が次のシリーズ化につながるということでございますので、議員の皆様もぜひとも御購入いただき、職員のほうも購入していくということで、済みません、よろしくお願いたします。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） 大変失礼な質問で申しわけございませんね。ただ、気に入らなかったのは、議員さん方、その前におたくらを買われたらいいんじゃないんですかということが冒頭に言いましたように言いたいわけでございます。まずそれを苦言を呈しておきたいと思います。もちろん議員さん方は市民の代表でございます、いろいろと皆さんが購入をされておるといような解釈をしております。

そういったことで、これは参考でございますが、私が知っております限りの今回までのいきさつの中で、話がまた前後するわけでございますが、松竹さんのほうがいろいろと竹原市のほうへこれは御相談があったのか、なかったのかわかりませんが、約6項目余りのことをおっしゃっておられるわけでございます。

かいつまんで言いますと、これは春ごろか2月ごろか、いつかはわかりませんが、もし違っておれば後ほど御答弁をいただきたいと思うんですが、今後の竹原市と「たまゆら」の連動したPRに関して統一をした窓口をつくっていただきたい。あるいは、「たまゆら」を活用した竹原のPRのために継続的、計画的ないろんな宣伝計画や商品化の計画、そういった策定等々をお願いができないか、あるいは、今後1年間のスケジュール等々の青写真をお互い共有できないか、こういったこと。それに伴ういろんなPR、そういった予算を組んでいただきますと大変ありがたい、こういったこと。そして、引き続き竹原でのイベントのとき人的な協力や施設の利用等々にぜひ御協力をいただきたい。そして、市での活用を目的としたDVDの購入についてもいろいろと御協力、検討をいただきたい。そして最後には、物語のキーアイテムとなる目的地のない切符の制作のためJR西日本との交渉に協力をしていただきたい。これは皆さん方に参考資料で配付をしてあるんではなかろうかと思いますが、行き先のない切符、こういった解釈ではないかと思います。

こういったことで、私の知っている情報等、もし相違点があれば御迷惑をおかけするものでありますので御答弁を、違っておるところがあればお願いをしたい。また、これにあわせて御答弁ができるところは具体的にはこのように考えているということもあわせて御

答弁をいただければと思います。

議長（脇本茂紀君） 観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） 小坂議員のほうから6点ほど要旨について説明があったと思います。統一した窓口というところで先ほども指摘がありましたけれども、企画と観光という形で一部そういう調整がうまくとれてなかったのではないかという御指摘ではなからうかと思しますので、今後は観光を中心として窓口として取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。

また、PRの関係になりますけれども、予算的なものは事前に話がありましたけれども、初めるときではそういう御説明がございませんでした。という中で、実際に進めていく中でこういう経費があるよというような形の実際に進めていく中で話があったというふうに理解をしております。

引き続きイベント時の人的、施設利用等御協力していただきたいという形については、できるだけ対応してまいりたいというふうには考えております。

また、DVDの購入等につきましても、できる限り庁内メールでの周知でありますとか情報発信等によって購入が促進されるようにしてまいりたいというふうに考えております。

6点目の最後のJR西日本との交渉ということでございますけれども、一たんは制作会社のほうでJRさんのほうと事前に交渉されたというふうに伺っておりますけれども、その交渉の中でなかなか難しい状況であるというふうには伺っております。

以上でございます。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） それと、私も仄聞なもので室長申しわけないんですが、佐藤監督が今月の12月6日にある関係者の方々が一緒に会食をされたとき、いろいろと言われたそうでございます。私も仄聞でございますが、3つ4つしか頭の中へ残ってないんですが、いわゆる道の駅等々に「たまゆら」のコーナーを設置していただきたい。これは恐らく12月13日に設置をされたのではないかと思います。間違いないですかね。ただ、個人的には、これ2階ですよ。何で2階なんかね。今のケーブルなんかは1階で大々的に宣伝をされながらいう思い、こういった思いも個人的に私は持っておるんですが、「たまゆら」のコーナーを設置していただきたい。

それと、私も先ほども言いましたように62年間竹原市に住んでおりまして知らなかつ

たんですが、竹原駅をおりてタクシーに乗るとこへ「おかえりなさい」いう文言が入っておるのがあるんですね。それはどのようなことかといいますと、田舎から都会へ出てあれを見るとほっとする、このようなお話もされておられていたようでございます。ですから、私どもの視点と監督の視点、いろんな見方が違う。それと、駅前のある方が駅前商店街の活性化を考えていろいろと何かアイデアを考えていただいて「たまゆら」のいろんな建設とかいろいろと方策を立てていただきたいという、いやいや、竹原は駅前も含めてこのままの状態が一番いいというようなことも言われたそうでございます。そういった観点から、私ども日ごろ見ている視点と、あるいは都会から来られた人の視点、そして、このストーリーそのもののいろんなことがマッチをしている、そういった思いもしておるわけでございます。それと、竹原を舞台にいろいろとまだまだ構想を練っている、このようなお話もされていらっしゃったそうでございます。これは参考でございます。

そういったことで、今後、今室長のほうも言われましたようにチームたまゆらを母体としたそういった組織づくりとかいろんなことをおっしゃっておるわけでございますが、今日までいろいろと協力をされました民間の団体の方、あるいは商店街の方々、あるいは協力をされた各種の皆さん方、いろんな市のほうがもっとこのようにやっていただければよかった、このように支援をいただければよかった、こういった無念さといいますか、残念さといいますか、そのような思いも持っていらっしゃる方もたくさんいらっしゃるということも御認識をいただきたいと思います。

また、先日、ちょうど大久野島のあれは義本支配人ですかね、あの支配人さん、なかなかいろいろ活発にされていらっしゃる方が、理事者側のほうは耳が痛いお話ではないかと思いますが、私自身はなるほどと思ったんですが、あの方が言われるのは、行政は当てにしたらいけない、そして何もしてくれない、そのような思いでいろいろと事業展開をしなくてはいけない、こういったことを言われたわけございまして、決して理事者側の皆さん方に本当に失礼な表現になろうと思いますが、そのぐらいの感覚でいいという方もいらっしゃるということも御認識をいただきたいと思います。

もう一方では、私個人的には市長も一緒でございますが、経営者でございます。この20年間いろいろと行政を見てみますと、行政が一番最大の武器というのは、人件費のことは本当に残業をさそうが、日曜日に出そうが、苦勞することはないし、私はこの強みというのは大いにあるというような思いがするわけでございます。ただ、私の言い方が少し乱暴でございまして、お金さえ払えばどンドンどンドン職員を使えばいいんか、そういう

解釈ではなく、案外楽な気持ちで、人件費のことを民間と比べて考えることはないし、いろんな意味で御支援、御協力といったこともできるのではないかと考えております。

また、そのほかガイドの件とかいろいろあるわけでございます。しかし、余り言いましても苦言めいたことばかりになろうと思っております。ここで、今後の戦略につきまして市のほうにお尋ねをさせていただきたいと思っております。

いま一度、先ほど御答弁の中では、もちろん商業ペースのいろんな企業秘密で何本売ればどういったことになる、こういったことも把握はできないかもわかりませんが、このある程度の販売実績を上げるために市のほうは冒頭に挙手をさせていただきましたように、まだまだ購入意識、あるいは市民の皆さん方のいろんな購入意欲、こういったものも欠落をしている、こういったことで今後の販売実績を上げるためのいろんなことはどういった手だてを打っていくのか。

それともう1点は、窓口のことをお話をさせていただきましたが、窓口はどうしても市のほうが役割を果たしていかなくては私はいけないという思いも持っておるわけございまして、これも市長、ぜひ市のほうで商工観光のほうに忙しければ企画のほうでもさすというようにいろんな方策を考えていただきたいと思います。こういったことで以上の2点につきましてお考え方を御答弁をいただきたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 建設産業部長。

建設産業部長（谷岡 亨君） 議員のほうからいろいろ御提言なり御意見、御指摘をいただきまして、ありがとうございます。

まず、今後の販売戦略ということでございますけれども、これまでも御答弁させていただいておりますとおり、あらゆる機会を通じまして情報提供なりPRなりさせていただくということでやっていきたいと思っております。また、職員等につきましても、これは庁内の中でも会議の中で具体的に職員にも周知を図っていく中で購入についてもお願い等は既にさせていただいておりますけれども、引き続き取り組んでまいりたいというふうに考えております。

それから、窓口の一本化につきましては、これは観光交流室を中心として当然これはさせていただきますということで御理解をいただきたいと思います。

また、体制上、当然応援が必要な場合もございます。これは、まずは建設産業部、あるいは総務部なり企画なり、そういったところで体制が必要な場合にはそのような形でとってまいりたいというふうに考えております。

引き続き、これについてはこれで終息というような方向ではなくて、ぜひとも議員のお話にもございました千載一遇というようなチャンスであるというふうにとらえまして、市としても、市としても市のイメージアップにつながると、加えて最終的にはテレビシリーズ化というようなことも念頭に置きながら今後もそういったことに努めてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） これは私の御提言になるんですが、参考に。いろんな戦略があると思います。この質問展開の中でもお話をしましたように、従来の竹原市の観光客というのは本当に高齢者の方、町内会のいろんな方、女性会の方、こういった御年配の方が多かった、あるいは今回は新しい発見というような観点から20代、30代のいわゆるネット社会、あるいは私たちが想像ができなかったような新しい層の観光客の誘致、こういった視点を持つ観点から御提言を申すわけでございますが、こういったときどうしてもネット社会ではないか。こういったことでインターネット等々を通じてまだまだ発信をしなくてはいけない、こういったこと。あるいはホームページ等々、あるいは市長のツイッターでもブログでも何でも結構です。そういったところからいろいろと発信もしていただきたい。

そして、いわゆる広報紙等々へは10月だったか、9月だったか、11月だったかわかりませんが、たまたま広報の表紙のほうには使っていらっしゃいましたが、広報のほうにも「たまゆら」コーナーといったものを毎月毎月周知徹底をさすのに設けていく、あるいはDVDを公共施設、市役所のロビーとか各公民館、あるいは学校関係、あるいはいろんな差し支えないところへいろいろと常時放映をするような、こういったことも必要ではないか、このようにも思っておるわけでございます。

そして、いろいろと来年度の予算等々に向けて予算編成もあろうと思いますが、私は千載一遇のチャンスである、これを逃がす手はない、こういった個人的な思いを持っておるわけでございまして、いろいろと予算づけをしっかりと、そして裏づけもしっかりとして予算づけも十分に新しい観光費用としてやっていただきたい、こういった思い、そして、竹原市は何といたしても情報の発信、収集、こういったことが今日までいろいろと欠落をしておるわけでございまして、特に今回の効果といったものは、竹原、竹原、竹原、道の駅から始まって、「たまゆら」から始まって、いろんな宣伝効果だけでも相当あったのではなかろうかというような思いで、まだまだこの「たまゆら」だけではなく、

「たまゆら」を通じていろいろと竹原市の情報発信、こういったものもやっていただきたい。

そして、冒頭にお話をしましたように、観光課のほうもいろいろと多忙のようでございます。しかし、人数のほうも7人、8人いらっしゃるわけでもございまして、ここへも、あるいは企画のほうにもアニメ室、こういったものも専従の方を設けていくような、こういったことも思い切ってやっていただきたい。そして、二番煎じ、三番煎じになるんですが、公用車等々にもいろんなキャラクターの方を使ったいろんな宣伝方法、こういったこともいろいろとあるんじゃないかと思っておるわけでもございます。

それと、これがどうしても質問の中で御答弁をいただきたいんですが、監督さん、あるいは声優さん、こういった方の竹原市の観光大使、こういったお考えはないのか、これがまず1点。そして、これは御答弁は結構ですが、竹高、忠高、あるいは竹原市在住の女子高校生、こういった方をモデルとしたアニメ「たまゆら」のこのような募集方法、こういったことを毎年やるとか、こういったこともぜひやっていただきたい。それとマスコットキャラクター、こういった募集も考えていただきたい。

そして、当分中、来なかって、自動販売機がどこ行ったんかねと思いましたが、位置が変わって、けさ戸惑ったんですが、コカ・コーラ等々によります「たまゆら」の自動販売機等々を市内各所に回せば、私の記憶の中では10%余りの還元がある、こういったことも活用していただいて、何もかも「たまゆら」、このような方策もやっていただきたい。

あわせて、ついでに言わせていただければ、タクシー等々もいろいろと低迷をしておるわけでもございまして、現在はジャンボ等々がかぐやひめコース、こういったこともやっていらっしゃるわけでもございますが、いわゆる「たまゆら」コース、あるいは「たまゆら」のロケ地めぐり、このようなこともいろいろと考えていただきたい。そして、来年の1月23日ですか、吉名のよがんすのお祭りがあるんじゃないかと思うんですが、あれとか、いろんなイベントが竹原にはあろうと思います。特に声優、監督を招いてのダブル効果を考えたこういったこともやっていただきたい、こういったことも御提言をしておきたいと思えます。

そして、一番私が言いたいのは、その参考の中にある水色の小さな切符なんです、これはどこにも売ってない、そしてどこでも行ける、そういった意味合いではないか、このように私は解釈をしておるわけでもございます。行き先がないということは、自分の夢、いろんなところへ行ける、こういった解釈でもございまして、これは先ほど室長のほうが、先

方のほうがいろいろとお話をされたというようなことですが、これは私はきっとヒットする、そのような思いも持っておるわけですが、ぜひこれは市長みずからでも行かれて、ぜひJRと交渉をして、いろいろ版權の問題、著作権の問題、このようなこともあろうと思いますが、これはぜひやっていただきたい。この件につきましては、市長じゃなくても担当の方に御答弁をいただきたい。そして、「聖地巡礼」と称します、こういったことで新しいパワースポット、こういったことを設けるお考え方はないのか、これも御答弁をいただきたいと思います。

それともう1点は、これはとってつけたような御質問になろうと思いますが、いわゆる各お店、あるいは商店等々がこの「たまゆら」に関するいろんな看板とか、あるいは改造等々に関して金額は5万円でも、20万円を限度にいろいろと補助金を出しますよ。しかし、市内の建築業者、建設業者、こういったことに発注をいただきたい、こういった支援策も私は必要ではないかという思いがしておるわけですが。

以上に関しまして多岐にわたりましたので質問になろうと思いますが、主要なところだけで結構でございます。御答弁をいただきたいと思います。

議長（脇本茂紀君） この際、会議時間を延長いたしておきます。

観光交流室長。

観光交流室長（堀信正純君） まず、観光大使という件だと思いますけれども、こちらにつきましては観光協会などの関係団体のほうと密接な連携なりをとる中で、そういう大使の任命等も含めまして検討してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

また、ロケ地マップであるとか切符というようなところの御指摘もありましたけれども、そういう部分については民間ベースでの取り組みというところもございますので、まずは今さっき申し上げたように、まず「たまゆら」の会議の中でその辺のところの情報共有等をする中で具体的な取り組みへつなげていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 企画政策課長。

企画政策課長（豊田義政君） JRの切符の件で1点だけ補足をさせていただきます。

公共交通を担当する部署ということで、夏から秋へかけての災害復旧、それから公共交通という中でJRと話をする中で、「たまゆら」の駅が出ている、呉線が出ているということで、支社のほうにも御紹介をさせていただき、竹原駅のほうにも御紹介をさせていた

だき、14番議員言われるように切符が絶対売りになるということで御紹介はさせていただいておるというところでございます。

議長（脇本茂紀君） 産業振興課長。

産業振興課長（中川隆二君） それでは3点目、この「たまゆら」を産業振興に生かせないかというような御質問かと思えます。

先ほど来、観光交流室長のほうからチームたまゆらの今後の予定というようなことで、これにつきましては、繰り返しになりますけれども、商工会議所、観光協会、市、それからNPO法人と船会社と、あとホテルで今回イベントをされているというような方々のチーム構成になっておまして、その中で一定にはNPO法人さんの今現在イベント費用の絡みが出るわけですけれども、その辺のいわゆるイベント費の回収が終わった時点で今後そういう商業的なこういうキャラクターの活用を考えていくということで、第1回目の会議でそういったまとめをしておりますので、今後、第2回目が年明けに予定をされている状況の中でそういう産業振興に活用できる部分は——済みません、駅前商店街もメンバーに入っておりますので、そういったところでの具体的な協議事項になってまいろうと思えますので、それにつきましても市のほうは支援をしていきたいというふうに考えております。よろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 14番。

14番（小坂智徳君） それじゃ、最後になろうと思うんですが、先ほどからいろいろと御答弁を市長いただきました。しかし、私の認識の中では観光協会、あるいは民間団体、あるいは飲食組合、食を考える会、いろいろ竹原市にはあるわけですが、どれもこれも皆ばらばら、こう言っても過言ではないかと思えます。そういった観点から、ぜひまとめ役として市がリーダーシップをとっていただきたい、こういったことはお願いをしておきたいと思えます。

そして、最後に市長に御答弁をいただきたいのは、市長、今日まで約9年間、市長として市長職を全うされていらっしゃるわけでございます。今日までいろんな意味合いからジェイパワーの1、2号機の改修、あるいはケーブルテレビ、あるいは道の駅等々で実績も残していらっしゃるわけでございます。今回の降ってわいたような、大変言葉は失礼な表現でございますが、ぜひ千載一遇のチャンスを生かしていただき、この「たまゆら」に関する思いと、そしてこれを生かした今後の観光面の充実、こういったことにつきまして最後まとめで結構でございます。簡潔明瞭で結構でございます。御答弁をいただき、私の質

問を終わりたいと思います。

議長（脇本茂紀君） 市長。

市長（小坂政司君） 議員御指摘のこのアニメ「たまゆら」の件でございますけれども、私も降ってわいたという表現ではございませんけれども、テレビなんかのドラマとか、この前のTBSの戦後の記録のドラマ等々、一緒のような考えで、ぜひ協力をしようじゃないかという話の中で今日まで来たわけでございますけれども、10月10日、我々が一日市長の日ということで、私はその前に8時半には、体育の日でございますので、バンブーのほうへ行く。早朝、竹原市の旧市内に入りますと状況が違うんですよね。若い男性が3人とか5人とか、朝の8時から回っておられるという姿で非常に驚いたわけございました。これはやはり我々が考えていたアニメ文化というのはすごいなというふうなことで実感をしたわけでございます。

加えて、今年度から非常に我々マスコミを使う、あるいはマスコミの方の協力を得ることが不足しておったということで、今年度本当に力を入れてマスコミへのプレスリリースをいろんな局面でしておりました。それと同時に、今回は道の駅のオープン、これもしかも公設公営ということでございますので、民間各テレビ放送局が取り上げていただきまして、いろんな局面でPRをしていただいた、これは経済効果も大きいわけでございます。そういったところで民間の方々も、放送局もね、いろんな面で竹原へ来ていただく機会が多かったんですが、私が感じていたとおり、竹原へ来たたらちょっと変わっておるということの中で、このアニメも民放各社取り上げていただいております。そういった面で非常に大きく経済効果があるわけでございますが、その中であって民間事業者の中でも非常に感覚のいいとか、そういった方が自己責任でかなり投資をされたと。ああ、これはいいことだったので、ただ、我々が反省しなきゃいけないのは、こういった面の情報を共有し、情報を取りまとめて皆さんに発信しなきゃいけないところが、もっと我々も知っていたら我々も参加したかったなというところがあるかと思っておりますので、そういう情報につきましては早期に公開をし、提供をしていくことが大切であろうかというふうに思います。したがって、チームたまゆらも今機能しておりますので、情報を提供しながら多くの方々の協力をいただきながらしていただかなきゃいけないというふうに思っております。

また、固有名詞が出ましたけれども、大久野島の支配人さんが、これは私は行政批判ではない、むしろ民間の方々の積極的な人は逆に公助を過大に評価しなくて、我々がみずからやるというスピーディー感を出してやられるのがこの支配人の成功の事例だろうと思ひ

ますので、観光協会にしてもいろんな民間団体、我々はもちろん取りまとめの協力をしていかなきゃいけないけれども、彼らもみずからやっついこうという力強い人材が竹原市内に多くふえていただくことが我々としても大変ありがたいというふうに思っております。

それから、佐藤監督とは局面においていろいろと情報交換させていただきますけれども、非常に竹原を本当に買っていただいております、なぜ竹原を選んでいただいたかという、やはり監督の感性の中で、竹原はすばらしいということでございまして、我々与会うときも時間におくれてお会いされるというほど、今、第1巻と第2巻できたんですけども、さらなる作成に意欲があるんじゃないかというぐらい、女子高校生に会ったり、いろいろと竹原の風景、あるいは竹原周辺の景観を研究しておられますので、ぜひ我々としては佐藤監督に次作の制作意欲を我々も協力していかなきゃいけないというふうに思っております。

したがいまして、このアニメ「たまゆら」も含めまして竹原の情報発信に加わることにつきましては市としても積極的に、また関係団体とも連絡を密にして、我々としては積極的に取りまとめのほうに入りたいというふうに思っておりますので、今後とも御理解のほどよろしく願いいたします。

議長（脇本茂紀君） 以上をもって小坂智徳君の一般質問を終結いたします。

明12月21日午前10時より会議を再開することとし、本日はこれにて散会いたします。

午後4時07分 散会